

県政世論調査

平成16年度

概要報告書



静岡県

目 次

	ページ
調査の概要	1
生活についての意識	2
暮らし向き	3
日常生活の悩みや不安	3
県の仕事に対する関心	4
県政への関心度	4
県への意見や要望、不満	5
県への意見や要望を反映させる手段	6
県に望む施策	7
犯罪の発生と防止についての意識	8
犯罪の発生状況	8
犯罪被害に遭う不安度と種類について	9
犯罪発生防止の点から見たあなたのまちの状況	10
オゾン層保護とフロン回収についての意識	13
フロンの認知について	13
フロンに対する望ましい県の取組み	14
花や緑に対する意識	15
公共的な施設にある花や緑について	15
「花や緑にあふれるまちづくり」に必要なこと	16
快適な高齢期に向けての意識	17
高齢期を快適に暮らすために重要なこと	17
日ごろの生活の中で特に心がけて実践していること	18
高齢期を快適に過ごすための施策について	19
2007年ユニバーサル技能五輪国際大会の県民周知度	20
ユニバーサル技能五輪国際大会の県民周知度	20
大会への関心と情報の入手先	21
家庭教育についての意識	22
家庭の日の認知	22
家庭教育で大切なこと	23
家庭教育充実のために県や市町村に望むこと	24
静岡県の20年後の姿	25
これからの社会の方向性	25
20年後の静岡県の姿について	32

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| (1) 生活についての意識 | (6) 快適な高齢期に向けての意識 |
| (2) 県の仕事に対する関心 | (7) 2007年ユニバーサル技能五輪国際大会の県民周知度 |
| (3) 犯罪の発生と防止についての意識 | (8) 家庭教育についての意識 |
| (4) オゾン層保護とフロン回収についての意識 | (9) 静岡県の20年後の姿 |
| (5) 花や緑に対する意識 | |

3 調査の設計

- 調査地域 静岡県全域
- 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女個人
- 標本数 2,000
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 調査員による面接調査
- 調査時期 平成16年7月6日～7月27日
- 調査機関 株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

4 回収結果

	20歳以上の推定人口	標本数	回収率(%)
東 部	1,007,460	663	503 (75.9)
中 部	990,356	652	520 (79.8)
西 部	1,041,220	685	528 (77.1)
全 県	3,039,036	2,000	1,551 (77.6)

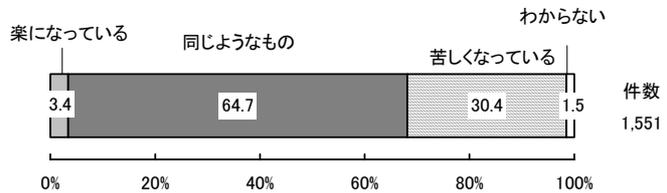
この冊子のよみかた

- 1 結果は百分率で表示した。数表・グラフの百分率は小数第2位を、結果の概要説明文では小数第1位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 回答結果は1,551を100%として示した。なお一部の方に対する質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- 3 質問の末尾に(M. A.)とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。

Q1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべてどうでしょうか。楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。

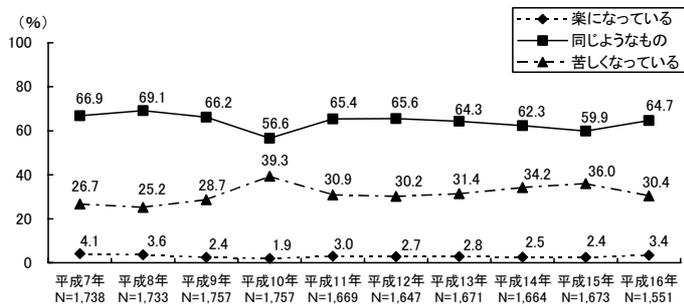
全 体

●65%が「同じようなもの」と回答している。「苦しくなっている」は30%と、3人に1人の割合となっている。



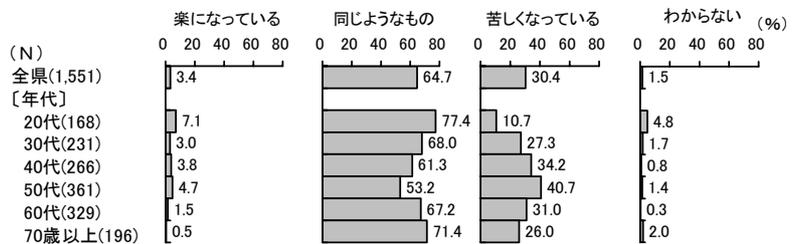
経 年 比 較

●平成11年度から15年までは、「同じようなもの」が緩やかな減少傾向で、一方、「苦しくなっている」は増加傾向であったが、本年度は「同じようなもの」が4.8ポイント増、「苦しくなっている」は5.6ポイント減となっている。



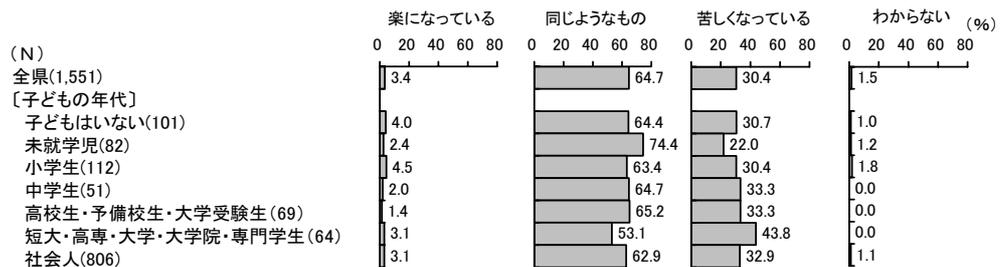
年 代 別

●「同じようなもの」は、40～60代で低く、「苦しくなっている」では高い。特に50代が41%とピークになっている。



子どもの年代別

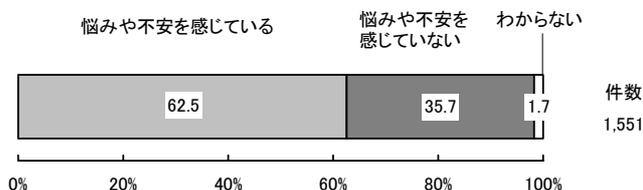
●「苦しくなっている」は、子ども（第1子）の年代が「短大・高専・大学・大学院・専門学校生」の場合で最も高く、44%となっている。



Q2 あなたは日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも別に不安は感じていませんか。

SQ〔回答票1〕悩みや不安に思っていることは、どのようなことですか。この中からいくつでもあげてください。

(M. A.)

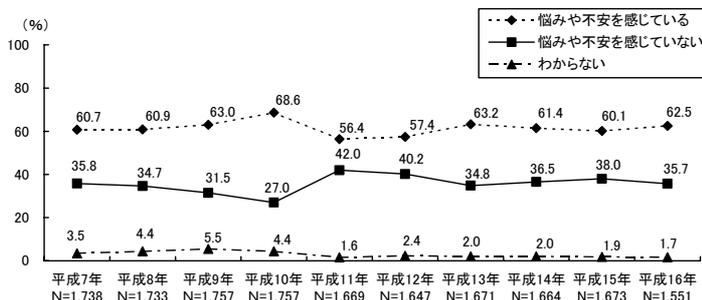


全体

●日常生活の中で「悩みや不安を感じている」人は6割以上を占めている。

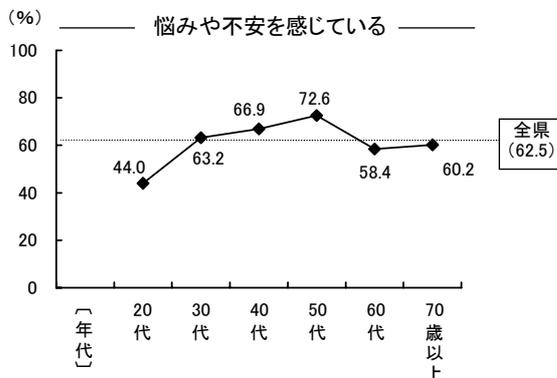
経年比較

●「悩みや不安を感じている」人の割合は、平成14年と昨年は減少傾向にあったが、本年度は、2.4ポイントの増加となっている。



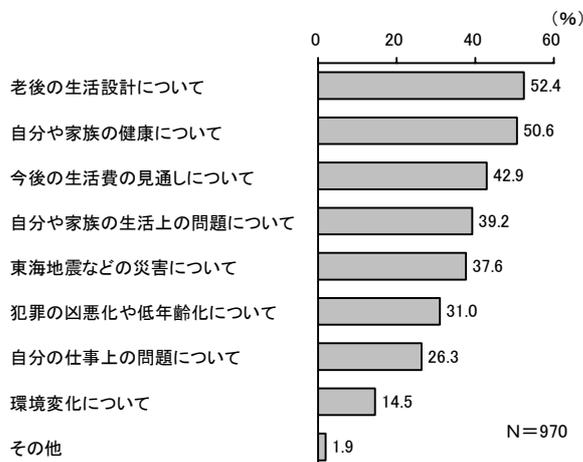
年代別

●「悩みや不安を感じている」人の割合は、50代が73%、40代が67%と高くなっている。



悩みや不安の内容

●「老後の生活設計について」が52%と、半数を超えており、以下、「自分や家族の健康について」、「今後の生活費の見通しについて」、「自分や家族の生活上の問題について」の順となっている。



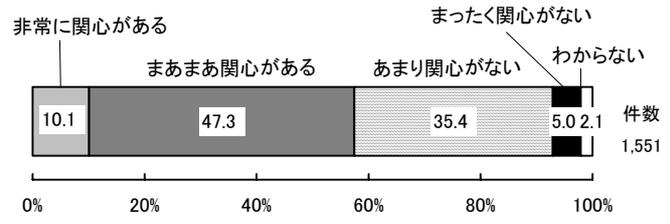
Q3〔回答票2〕あなたは県の政治や行政にどの程度関心がありますか。この中ではどうでしょうか。

SQ1〔回答票3〕県政に関心がある理由を1つだけあげるとすれば、この中ではどうでしょうか。

SQ2〔回答票4〕県政に関心がない理由を1つだけあげるとすれば、この中ではどうでしょうか。

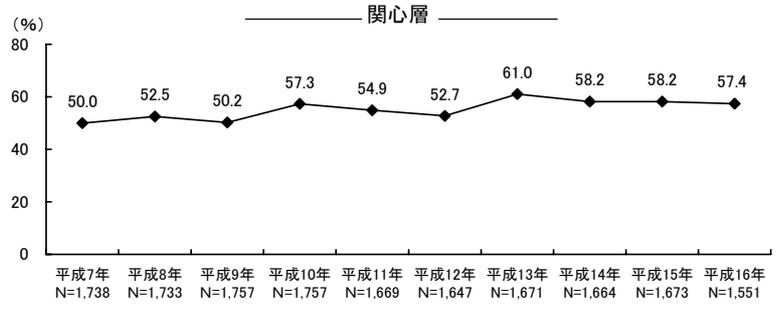
全 体

- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた、57%の人が県政に関心を持っている。



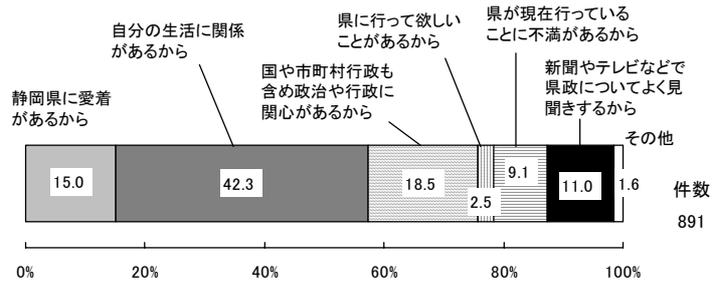
経 年 比 較

- 県政に関心を持っている人の合計は、平成13年度は、過去10年間の調査の中で最高となっていたが、減少に転じ、本年度は前年度よりも0.8ポイント減になっている。



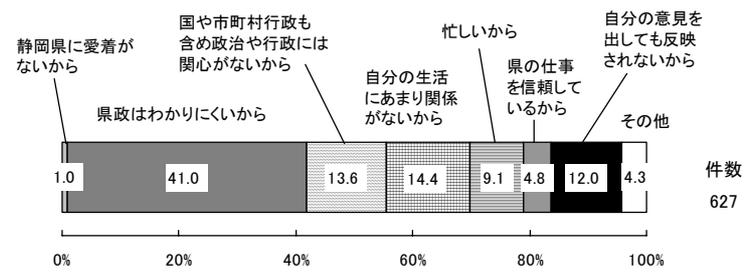
関心がある理由

- 「自分の生活に関係があるから」が42%で最も多くなっている。



関心がない理由

- 「県政はわかりにくいから」が41%で最も多くなっている。



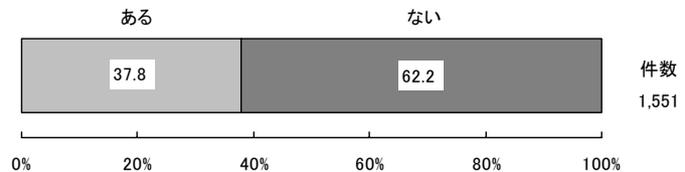
県への意見や要望、不満

意見や要望、不満が「ある」人は38%、
そのうち県に伝えた人は9%

Q4 あなたはこの1年間に県の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたことがありますか。

SQ1 それでは、そのことを県に伝えましたか。

SQ2〔回答票5〕意見や要望及び不満があっても、県に伝えなかったのは、どうしてでしょうか。この中から主な理由を1つだけあげてください。

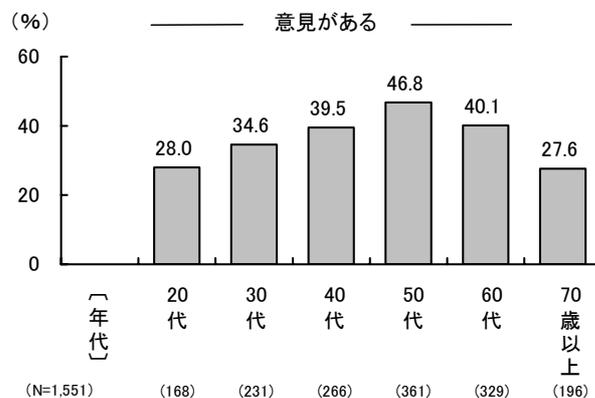


全 体

- 県の仕事について、意見や要望、不満が「ある」と回答した人は38%となっている。

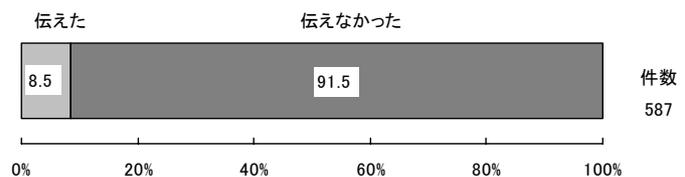
年 代 別

- 意見や要望、不満が「ある」人の割合は、40代から60代の中高年代で4割程度と高くなっている。



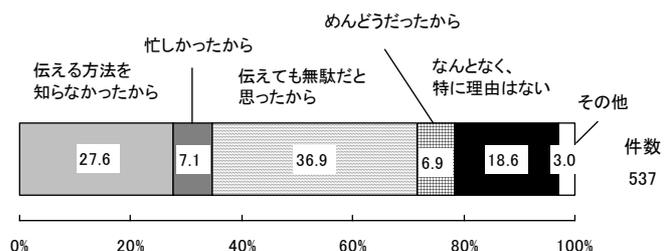
伝 達 の 有 無

- 意見や要望、不満が「ある」人のうち、県に伝えた人は9%にとどまっている。



伝達しなかった理由

- 「伝えても無駄だと思ったから」と回答した人は、37%で最も多い。次いで「伝える方法を知らなかったから」が28%となっている。



県への意見や要望を 反映させる手段

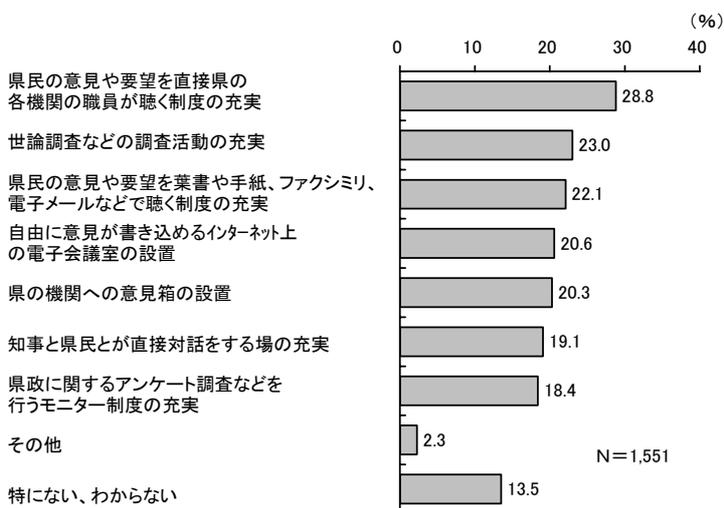
「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」が29%で最も多い

Q5〔回答票6〕あなたの意見や要望を県政に反映させるために、どのようなことを充実させてほしいですか。この中から2つまであげてください。

(M. A.)

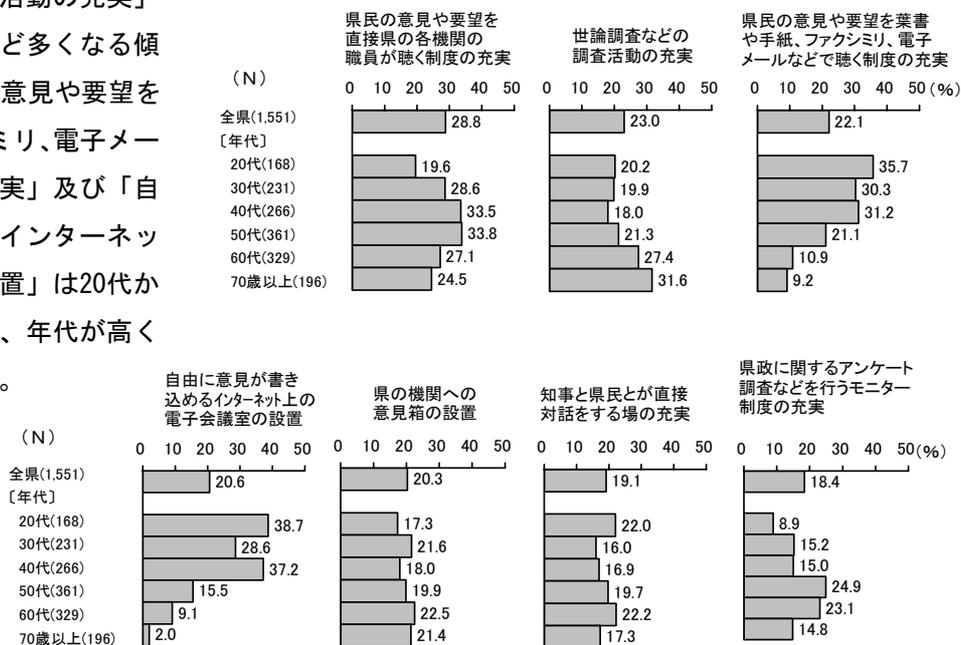
全 体

●「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」が29%で最も多く、以下、「世論調査などの調査活動の充実」、「県民の意見や要望を葉書や手紙、ファクシミリ、電子メールなどで聴く制度の充実」、「自由に意見が書き込めるインターネット上の電子会議室の設置」、「県の機関への意見箱の設置」、「知事と県民とが直接対話をする場の充実」、「県政に関するアンケート調査などを行うモニター制度の充実」の順となっている。



年 代 別

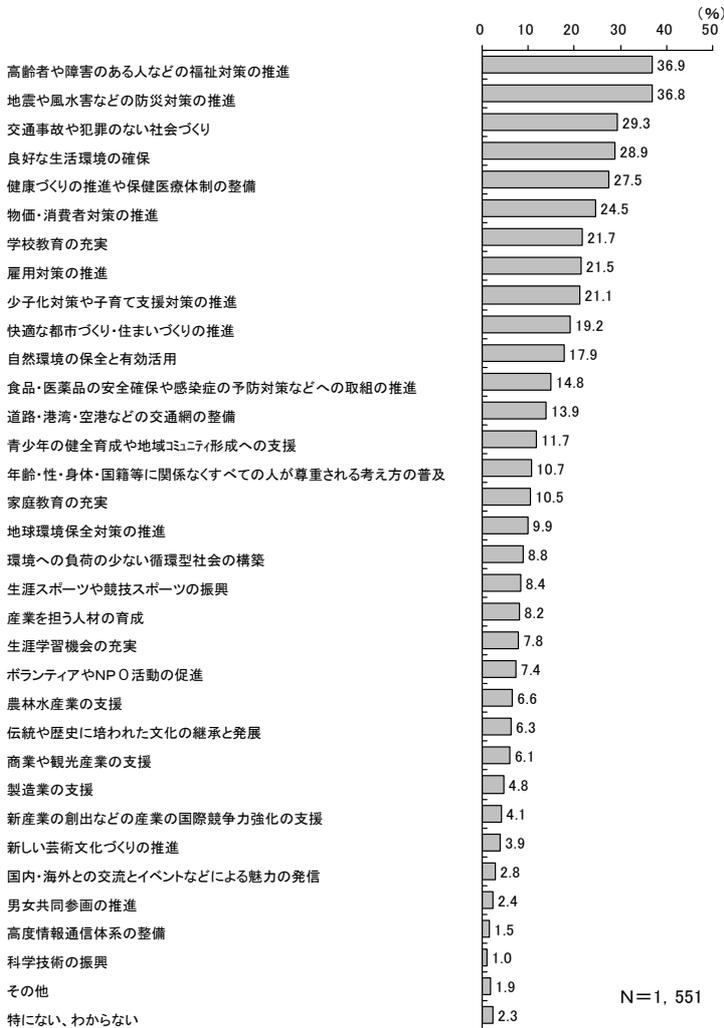
●「世論調査などの調査活動の充実」は、年代が高くなるほど多くなる傾向がみられる。「県民の意見や要望を葉書や手紙、ファクシミリ、電子メールなどで聴く制度の充実」及び「自由に意見が書き込めるインターネット上の電子会議室の設置」は20代から40代の若年代で高く、年代が高くなるほど減少している。



Q6〔回答票7〕あなたが、県に特に力を入れてほしいと考えることを、この中から5つまであげてください。
(M. A.)

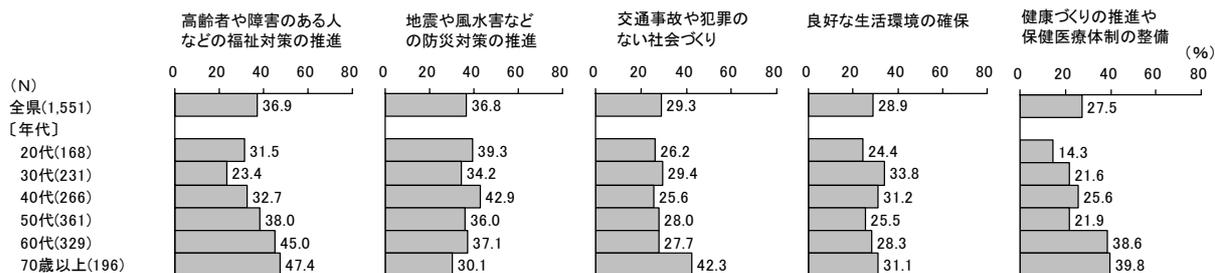
全 体

●「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」が37%で第1位、以下、「地震や風水害などの防災対策の推進」、「交通事故や犯罪のない社会づくり」、「良好な生活環境の確保」、「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」、の順となっている。



年 代 別

●第1位の「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」、第5位の「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」は、いずれも年代が高くなるにつれて、割合が高い傾向にある。第3位の「交通事故や犯罪のない社会づくり」は、70歳以上が42%と特に高くなっている。



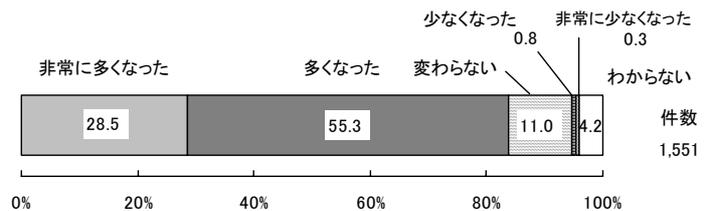
犯罪の発生状況

県内の犯罪が、「非常に多くなった」、「多くなった」と感じている人は、84%

Q7〔回答票8〕あなたは、県内の犯罪の発生状況についてどのように感じていますか。

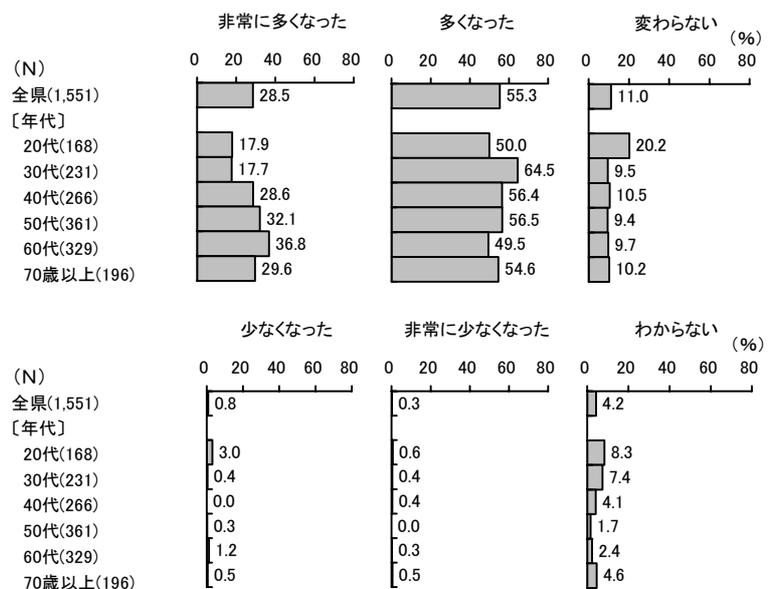
全 体

- 「多くなった」が55%で最も多く、続いて、「非常に多くなった」と、8割以上の人々が「犯罪が多くなった」と感じている。



年 代 別

- 「非常に多くなった」が20代、30代で18%と全県を10ポイント以上下回っている。さらに、「非常に多くなった」と「多くなった」を合わせた『犯罪が多くなったと感じている人』は、20代で68%と特に少なくなっている。



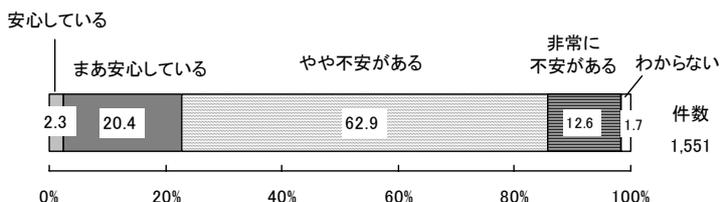
犯罪被害に遭う不安度と種類について

県内で犯罪被害に遭う不安を感じている人は76%、不安を感じる犯罪は、「空き巣などの侵入窃盗」が68%

Q8 [回答票9] あなたやあなたの家族が、県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。
 SQ [回答票10] 不安を感じている犯罪を、この中からいくつでもあげてください。
 (M. A.)

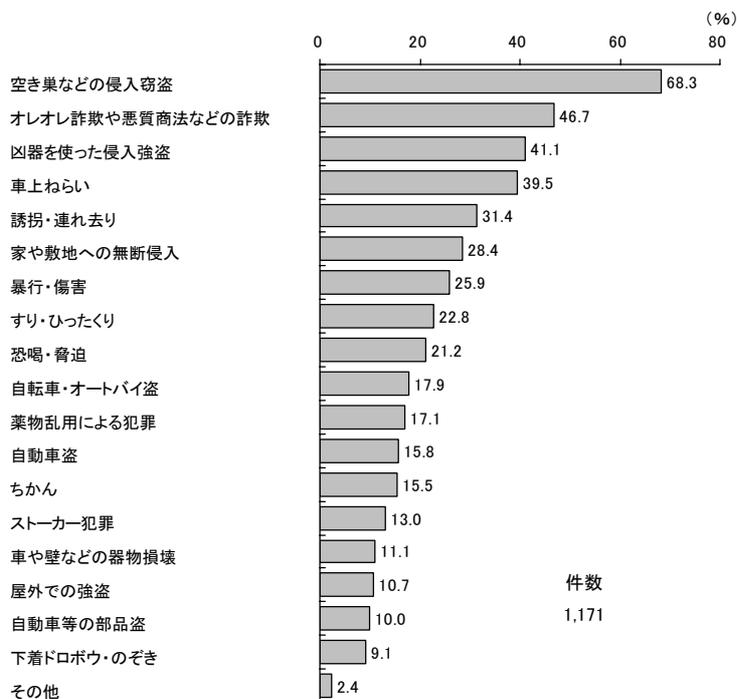
全 体

●犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じている程度は、「やや不安がある」が63%で最も多く、不安層は76%、一方、安心層は23%と少ない。



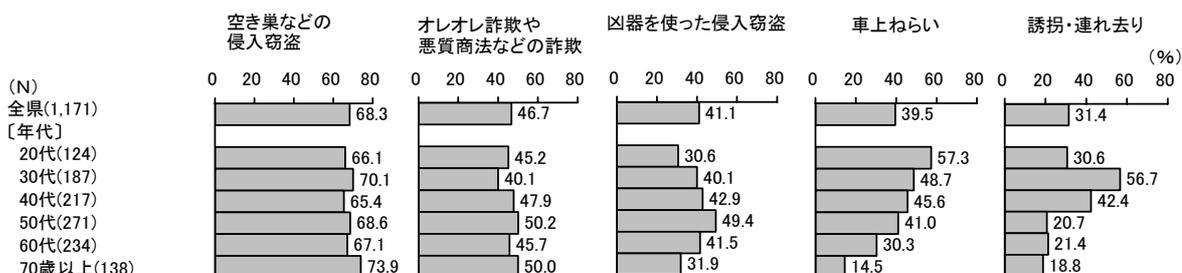
不安を感じている犯罪

●不安を感じている犯罪は「空き巣などの侵入窃盗」が68%で最も多く、以下「オレオレ詐欺や悪質商法などの詐欺」、「凶器を使った侵入強盗」、「車上ねらい」、「誘拐・連れ去り」といった順となっている。



年 代 別

●「車上ねらい」は車をよく使うであろう弱年代に多くなっている。また、30代および40代といった子どもがいると考えられる年代では「誘拐・連れ去り」が全県平均よりも10ポイント以上高くなっている。



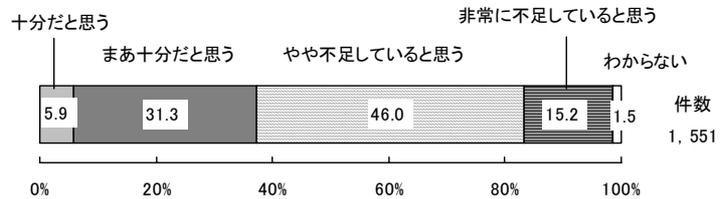
犯罪発生防止の点から見た あなたのまちの状況

犯罪防止の対策は、「不足していると感じている」人は、半数以上

Q9 [回答票11] あなたは、犯罪発生防止の点から、あなたのまちをどう思いますか。次にあげる項目について、それぞれ1つお選びください。

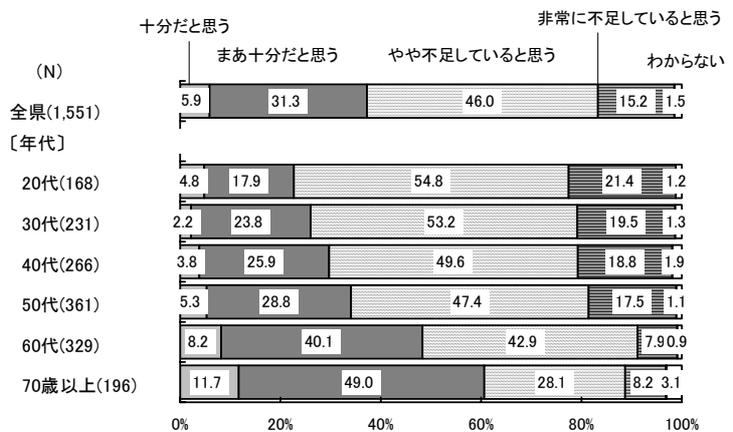
防犯灯や街灯の設置状況

●「やや不足していると思う」が46%、続いて「まあ十分だと思う」が31%となっているが、不足を感じている人が6割以上を占めている。



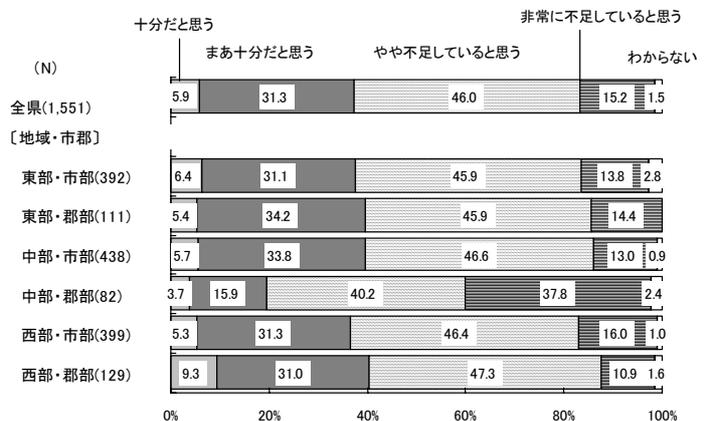
年代別

●「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」をあわせた『満足層』は、年齢が上がるにつれて割合が高まっており、特に70歳以上では60.7%と6割を超える人が満足している。



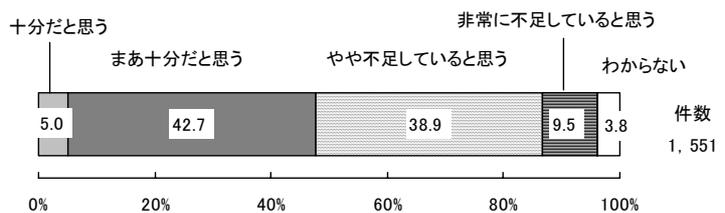
地域・市郡別

●東部と西部では『満足層』の割合が郡部のほうが市部よりも上回っているが、中部では市部のほうが40%と郡部の20%よりも10ポイント上回っており、郡部の『不満層』が78%とどの地域よりも際立って高くなっている。



視線の通りにくい道路脇の 樹木・植栽の管理

●「まあ十分だと思う」が43%「やや不足していると思う」が39%で、不足していると感じている人と十分だと感じている人は、ほぼ同数になっている。



年代別

- 60代、70歳以上の高年齢層で「満足層」が多くなっており、50%以上が「十分だ」と感じている。一方、40代、50代の中年層で「不満層」が多くなっており、50%以上が「不足している」と感じている。

地域・市郡別

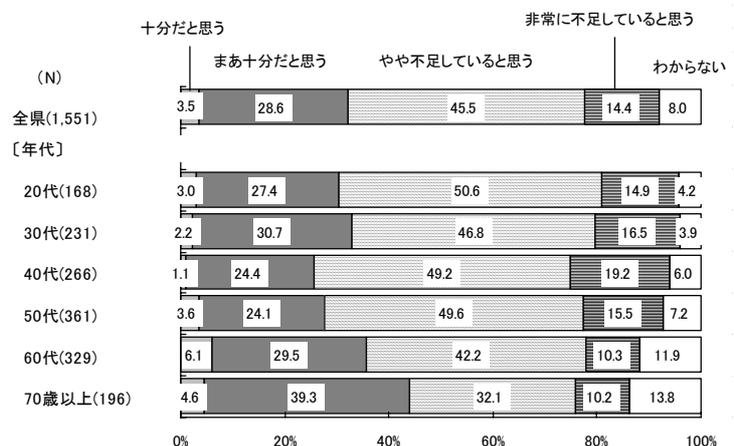
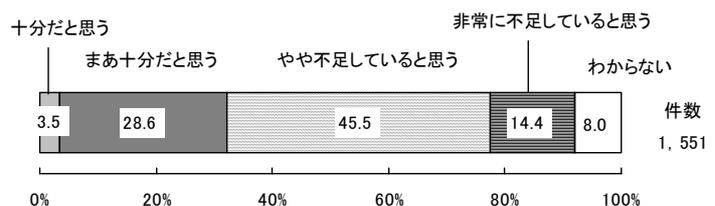
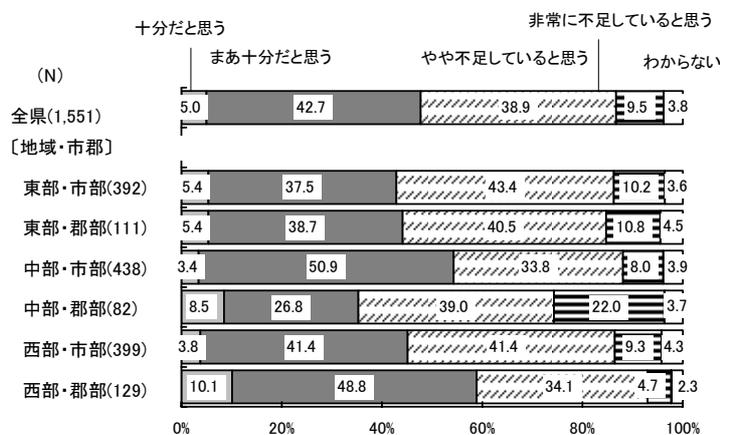
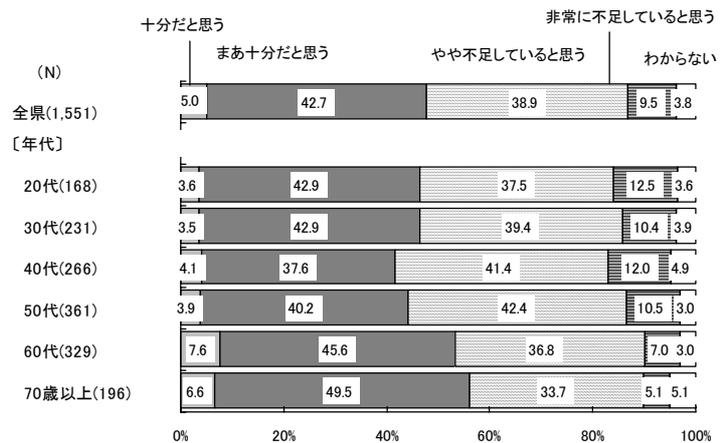
- 中部の市部および西部の郡部では『満足層』が50%を超えており、特に西部の郡部では59%と約6割を占めている。それ以外の地域では、『不満層』が50%を超えており、特に中部の郡部では61%と6割を超えている。

個人の住宅や商店の建物の防犯管理体制

- 『個人の住宅や商店の建物の防犯管理体制』については、「やや不足していると思う」が46%、続いて「まあ十分だと思う」が29%となっているが、不足を感じている人が約6割を占めている。

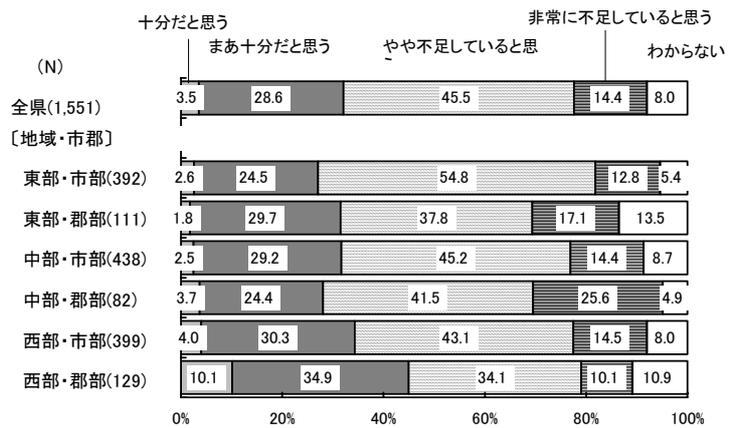
年代別

- 70歳以上で『満足層』が44%と最も高くなっているが、それ以外の年代ではいずれも『不満層』が半数以上を占めており、特に40代では68%と多く『不満層』が約7割を占めている。



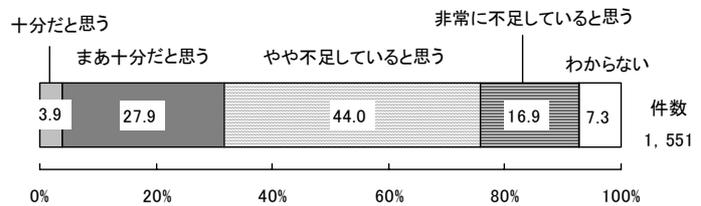
地域・市郡別

- 西部の郡部において『満足層』が45%と約半数を占めているが、それ以外の地域では『不満層』が50%を超えており、特に東部の市部および中部の郡部では65%以上と、他の地域に比べても『不満層』の割合が高くなっている。



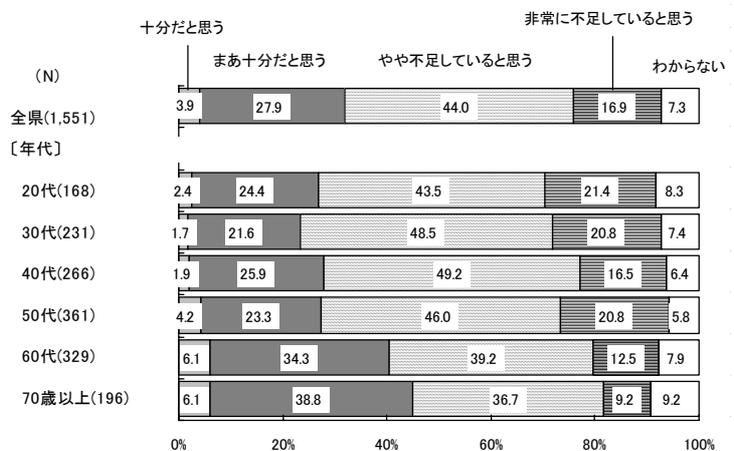
地域住民の自主的防犯活動

- 『地域住民の自主的防犯活動』については、「やや不足していると思う」が44%、続いて「まあ十分だと思う」が28%となっているが、不足を感じている人が6割以上を占めている。



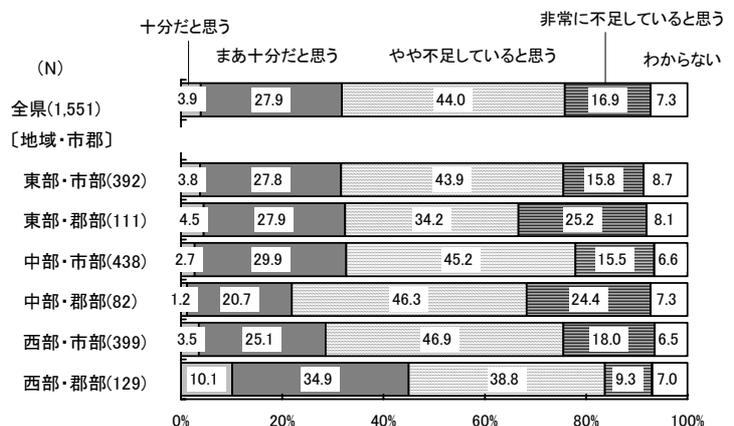
年代別

- 年齢が上がるにつれて『満足層』の割合が高くなり、特に70歳以上では50%と半数を占めているが、70歳以上の年代以外は『不満層』が過半数を占めており、特に30代では69%と『不満層』が約7割を占めている。



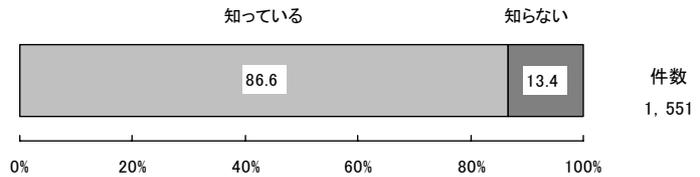
地域・市郡別

- 西部の郡部において『満足層』が45%と半数を占めているが、それ以外の地域では反対に『不満層』が半数以上を占めており、特に中部の郡部においては71%と7割以上の人々が「不足している」と感じている。



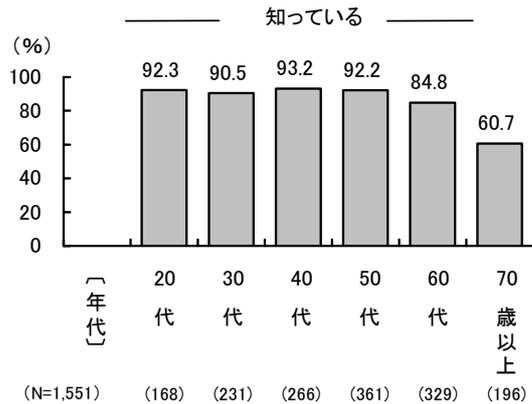
Q10 [回答票 12] 冷蔵庫の冷媒などに使用されているフロンは、オゾン層を破壊したり、地球温暖化を進行させることを知っていますか。

SQ [回答票 13] フロンは、いろいろなものに使われています。次の中から知っているものをすべてあげてください。
(M. A.)



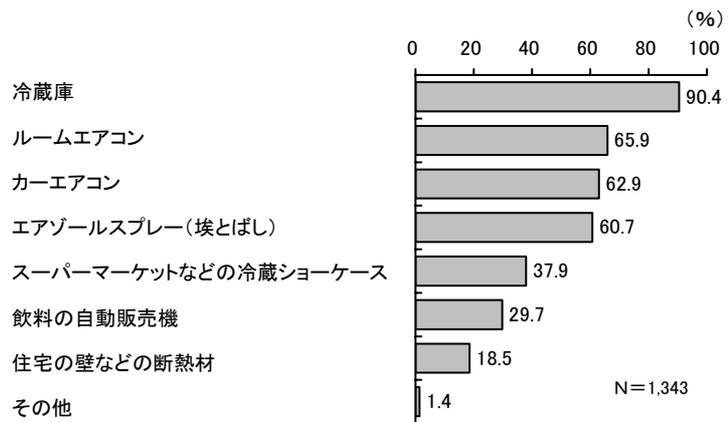
全 体

●オゾンによる環境破壊については、「知っている」が87%、「知らない」が13%と、8割以上の方が「知っている」と回答した。



年 代 別

●年代別にみると、70歳以上が61%と、他の年代において8割以上の方が「知っている」と回答したのに対して6割程度の認知になっている。

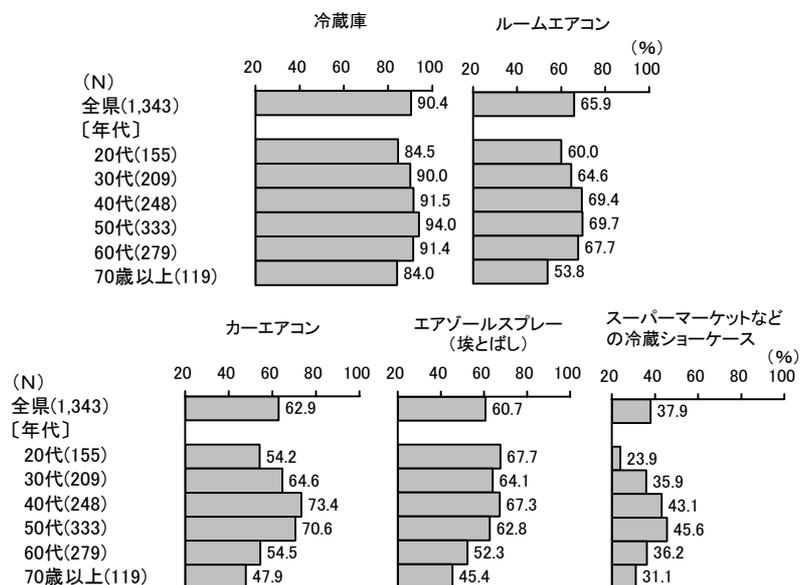


フロンが使用されているものの認知

●「冷蔵庫」が90%と特に多く、以下「ルームエアコン」が66%、「カーエアコン」が63%、「エアゾールスプレー(埃とばし)」が61%と続き、6割以上の方が知っていると回答している。

年 代 別

●20代で「スーパーマーケットなどの冷蔵ショーケース」、「飲料の自動販売機」において、70歳以上で「ルームエアコン」、「カーエアコン」、「エアゾールスプレー(埃とばし)」において、全県平均を10ポイント以上下回っている。一方、40代で「カーエアコン」において73%と全県平均を10ポイント以上上回っている。



フロンに対する望ましい県の取組み

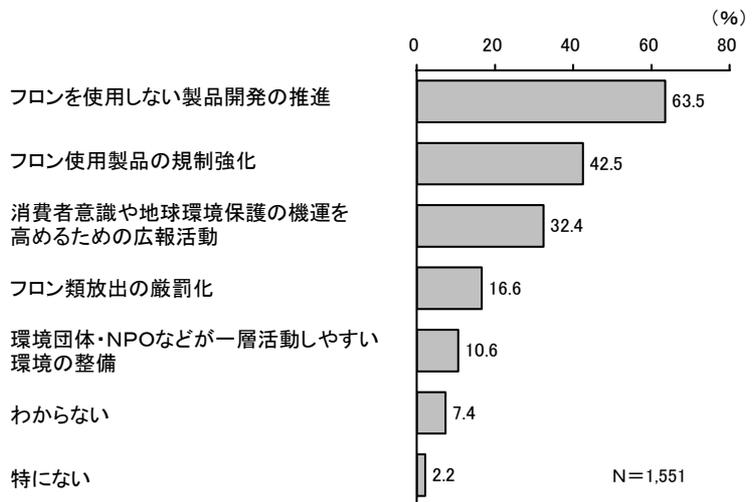
「フロンを使用しない製品開発の推進」が64%

Q11 [回答票 14] フロンの大気放出を防ぐために、県としてどのような取組みをしていくことが望ましいと思いますか。この中から2つまであげてください。

(M. A.)

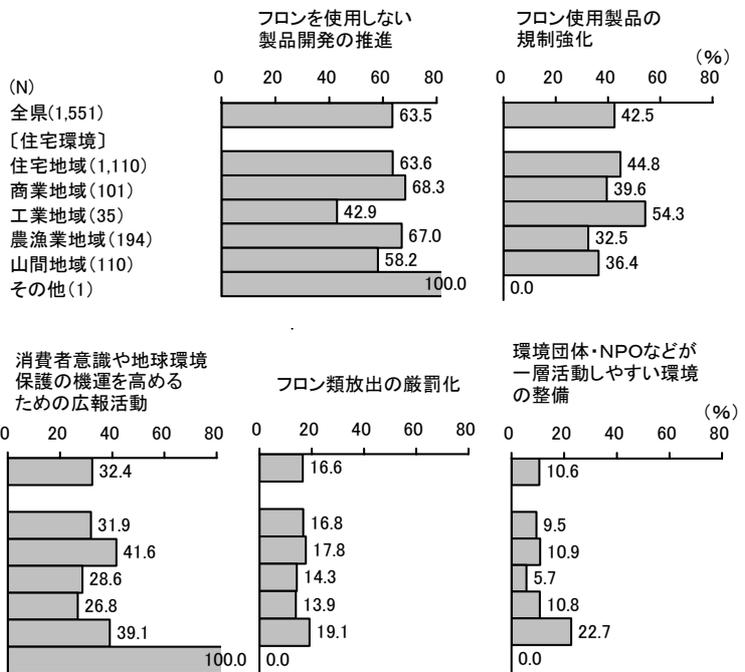
全 体

●フロンの大気放出を防ぐために、県にどのような取組みを望むかについては、「フロンを使用しない製品開発の推進」が64%で最も多く、以下「フロン使用製品の規制強化」が43%、「消費者意識や地球環境保護の機運を高めるための広報活動」が32%と続いている。



住 宅 環 境 別

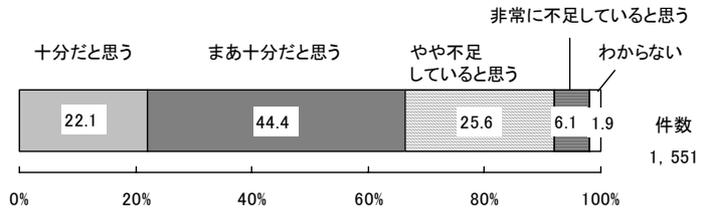
●工業地域で「フロンを使用しない製品開発の推進」が43%と全県平均を21ポイントも下回っているが、「フロン使用製品の規制強化」が54%と11ポイント上回っている。また、山間地域で「環境団体・NPOなどが一層活動しやすい環境の整備」が23%と全県平均を10ポイント以上上回っている。



Q12 公園や歩道等、公共的な施設にある、あなたの身近な花や緑についてお聞きします。

(1) [回答票15] あなたの身近にある花や緑の量は十分ですか。

(2) [回答票16] あなたの身近にある花や緑の手入れ・種類に対する満足度はどうですか。

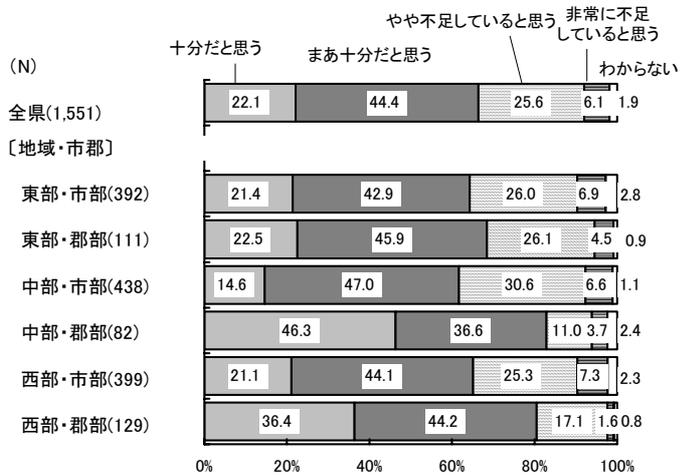


花や緑の量

●「まあ十分だと思う」が44%で最も多く、「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた十分層が6割以上を占めている。

地域・市郡別

●いずれの地域においても郡部が市部を上回っており、特に中部の郡部で83%、西部の郡部で81%と『満足層』が8割以上を占めている。

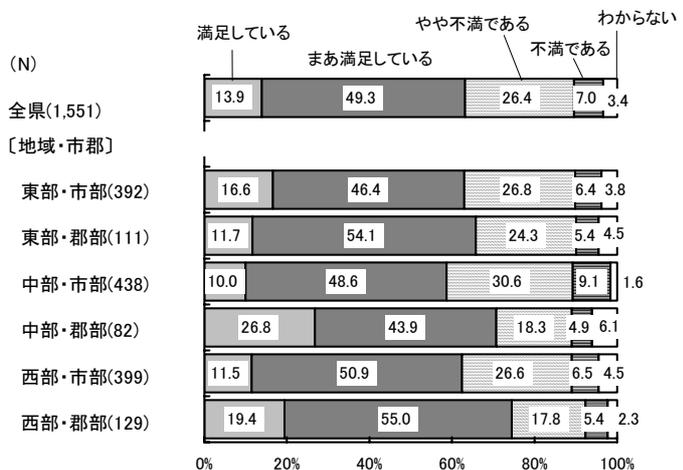
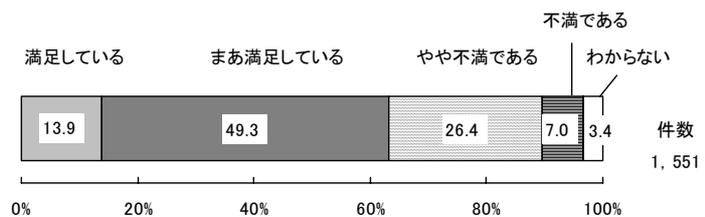


手入れと種類に対する満足度

●「まあ満足している」が49%で最も多く、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足層』が6割以上を占めている。

地域・市郡別

●いずれの地域においても郡部が市部を上回っており、特に中部の郡部で71%、西部の郡部で74%と『満足層』が7割を超えている。



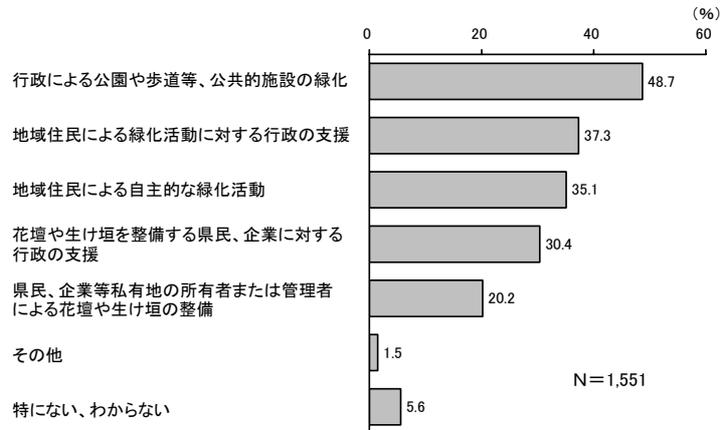
「花や緑にあふれるまちづくり」に必要なこと

「行政による公園や歩道等、公共的施設の緑化」が最も多く49%

Q13 [回答票17] 「花や緑にあふれるまちづくり」のためには何が重要だと思いますか。この中から2つまであげてください。(M. A.)

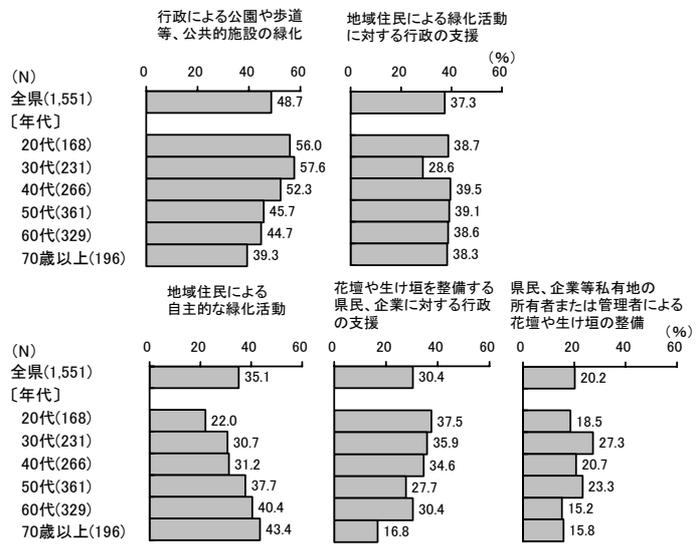
全 体

●「行政による公園や歩道等、公共的施設の緑化」が49%で最も多く、以下「地域住民による緑化活動に対する行政の支援」が37%、「地域住民による自主的な緑化活動」が35%、「花壇や生け垣を整備する県民、企業に対する行政の支援」が30%となっている。



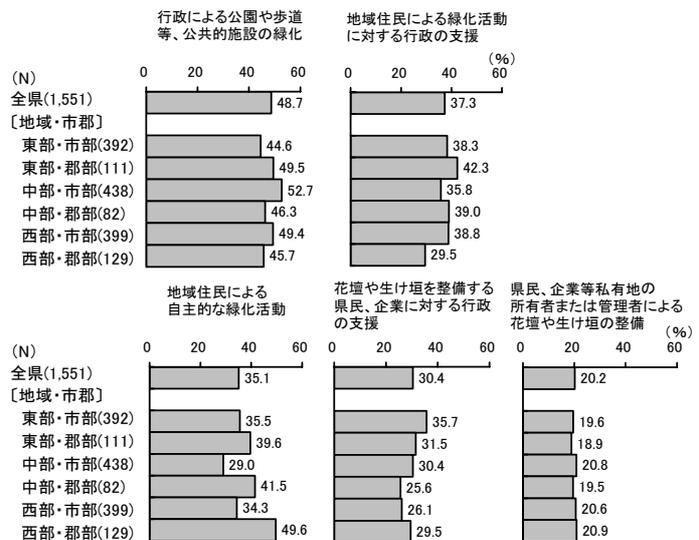
年 代 別

●「行政による公園や歩道等、公共的施設の緑化」は年代が上がるにつれて必要であると思う人の割合が低くなる傾向が見られ、一方「地域住民による自主的な緑化活動」は年代が上がるにつれて必要であると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。



地域・市郡別

●「地域住民による自主的な緑化活動」はいずれの地域においても郡部が市部を上回り、特に西部の郡部では50%と全県平均を10ポイント以上上回っている。



高齢期を快適に暮らすために

1位は「趣味、生きがい」の57%

2位は「定期的な健康診断の受診」の52%

重要なこと

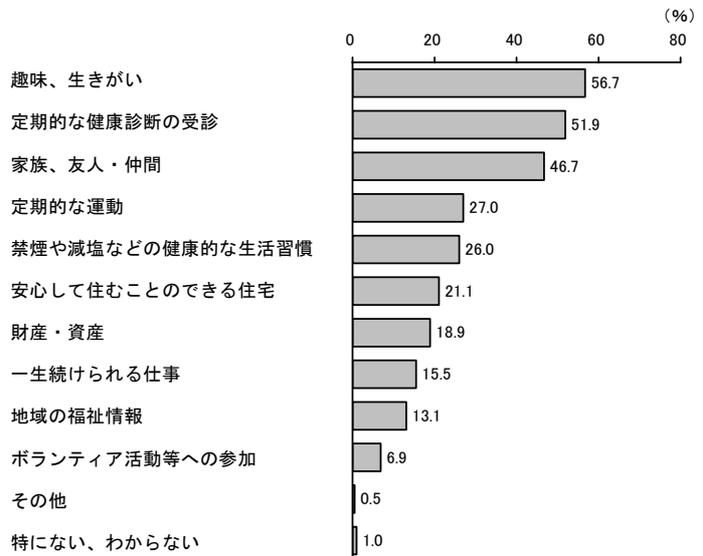
Q14〔回答票18〕あなたは、高齢期を快

適に暮らすためには、日ごろの生活において何が重要だと思いますか。この中から3つまであげてください。

(M. A.)

全 体

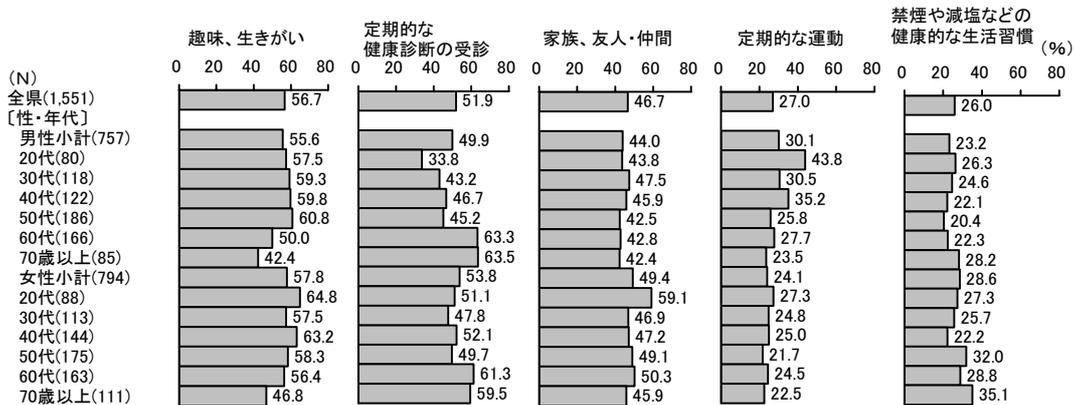
- 「趣味、生きがい」が57%で最も多く、続いて「定期的な健康診断の受診」が52%と、半数以上の方が回答している。以下「家族、友人・仲間」、「定期的な運動」、「禁煙や減塩などの健康的な生活習慣」、となっている。



N=1,551

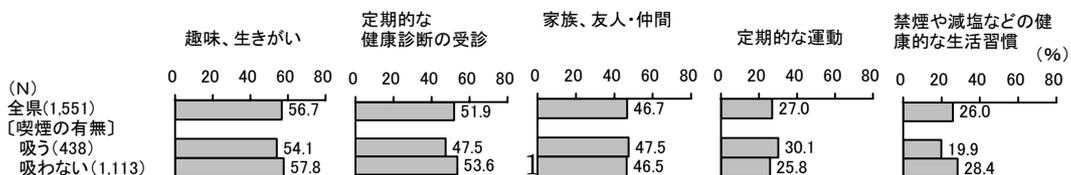
性・年代別

- 男女ともに20代から50代までの第1位は「趣味・生きがい」となっているが、60歳以上の第1位は「定期的な健康診断の受診」となっている。



性・年代別

- 「定期的な健康診断の受診」や「禁煙や減塩などの健康的な生活習慣」では、非喫煙者が喫煙者をそれぞれ上回っている。



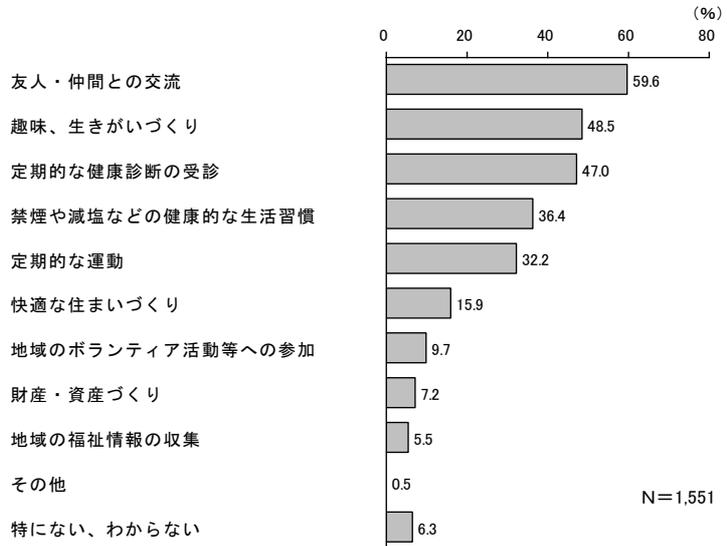
日ごろの生活の中で特に心がけて実践していること

1位は「友人・仲間との交流」で60%
2位は「趣味・生きがいがづくり」で49%

Q15〔回答票19〕あなたが、日ごろの生活の中で特に心がけて実践していることがらを、この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

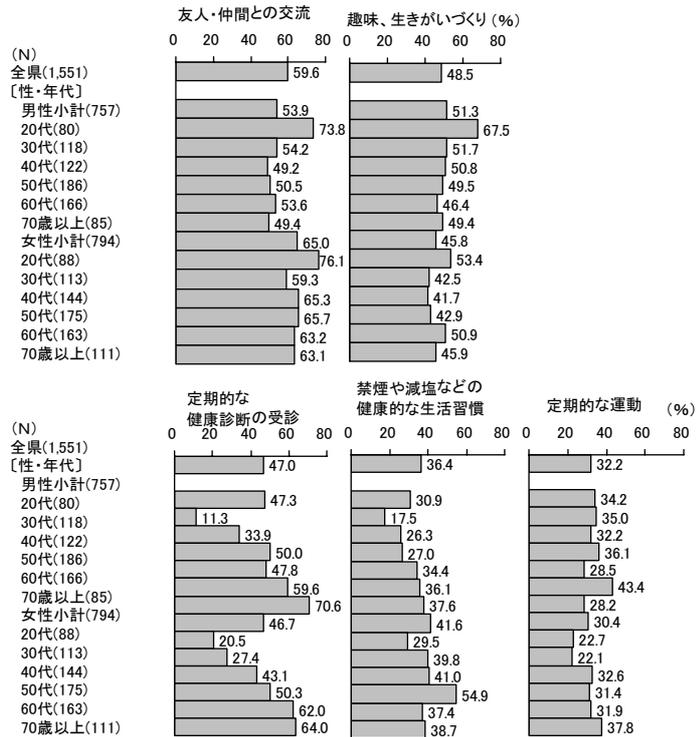
全 体

●「友人・仲間との交流」が60%で最も多く、以下「趣味、生きがいがづくり」、「定期的な健康診断の受診」、「禁煙や減塩などの健康的な生活習慣」、「定期的な運動」と続いている。上位5項目は、順位は入れ替わっているが、『日ごろの生活で重要なこと』の上位5項目と同じであった。



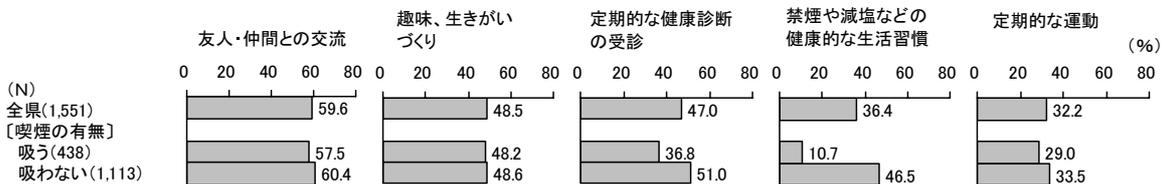
性・年代別

●男女ともに50代まではほぼ第1位が「友人・仲間との交流」だが、女性の60歳を除く60歳以上の第1位は「定期的な健康診断の受診」で、全県平均を10ポイント以上上回っている。男性20代では「趣味・生きがいがづくり」、男性60代では「定期的な運動」、女性50代では「禁煙や減塩などの健康的な生活習慣」、女性60代では「定期的な健康診断の受診」がそれぞれ多くなっている。



喫煙の有無別

●「定期的な健康診断の受診」、「喫煙や減塩などの健康的な生活習慣」では、非喫煙者が喫煙者を10ポイント以上上回っており、特に「喫煙や減塩などの健康的な生活習慣」でその差は大きくなっている。



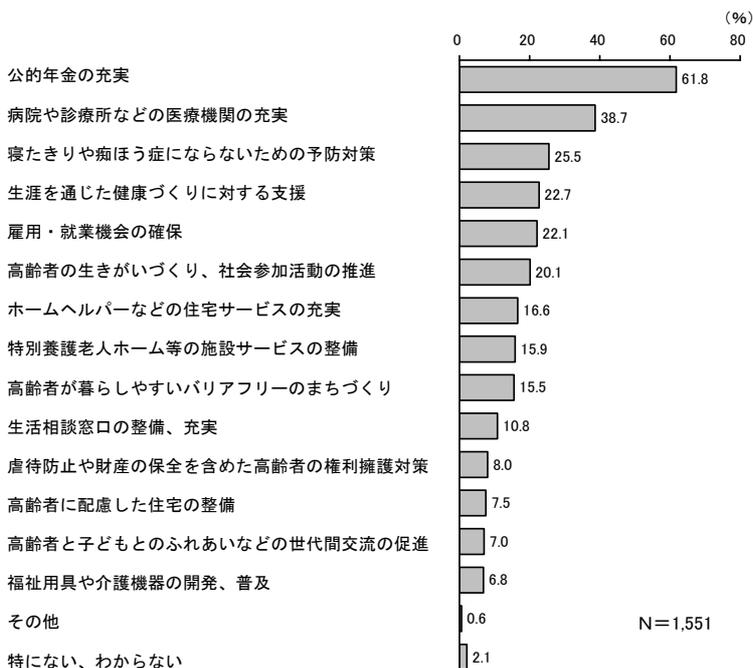
高齢期を快適に暮らすための施策について

1位は「公的年金の充実」で62%、
2位は「病院や診療所などの医療機関の充実」39%

Q16〔回答票 20〕あなたは、高齢期を快適に暮らすためには、どのような施策が重要だと思いますか。この中から3つまであげてください。(M. A.)

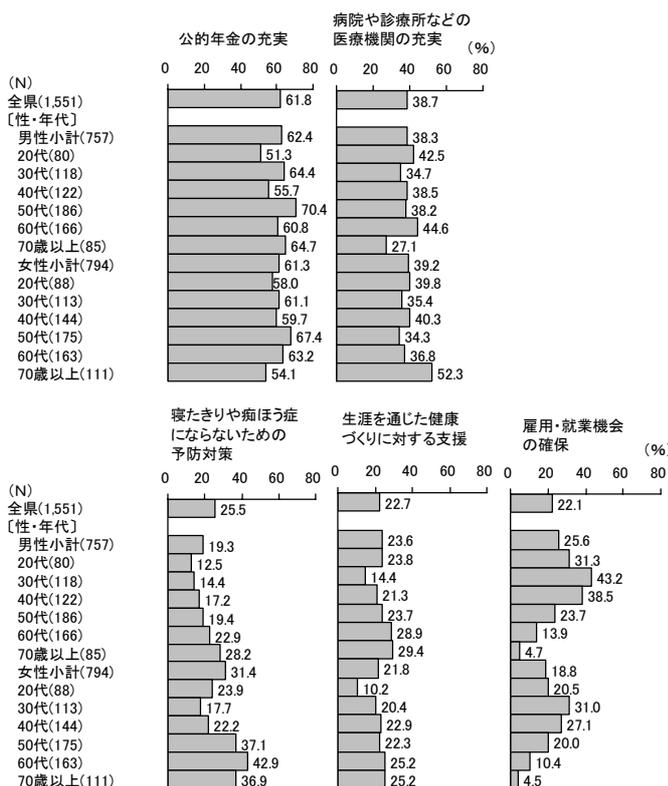
全 体

●「公的年金の充実」が62%と6割以上で最も多く、以下「病院や診療所などの医療機関の充実」、「寝たきりや痴ほう症にならないための予防対策」、「生涯を通じた健康づくりに対する支援」、「雇用・就業機会の確保」と続いている。



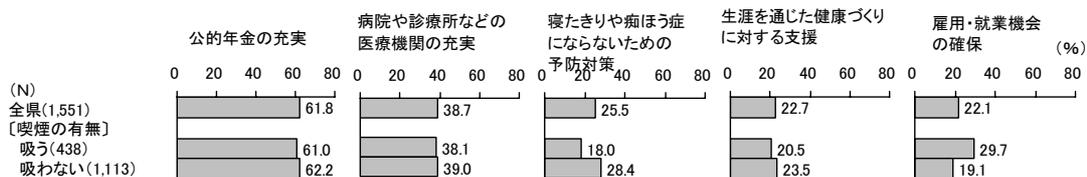
性・年代別

●男性30代、40代では「雇用・就業機会の確保」が、女性の50歳以上は「寝たきりや痴ほう症にならないための予防対策」が、70歳以上では「病院や診療所などの医療機関の充実」が、全県平均を10ポイント以上上回っている。



喫煙の有無別

●「寝たきりや痴ほう症にならないための予防対策」で非喫煙者が喫煙者を10ポイント以上上回っているが、「雇用・就業機会の確保」では、喫煙者が非喫煙者を10ポイント以上上回っている。



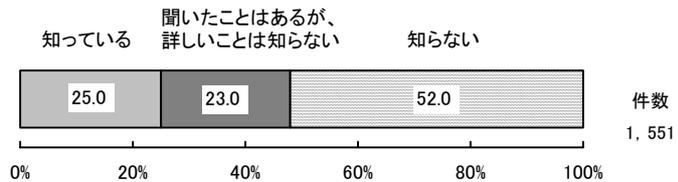
ユニバーサル技能五輪国際大会 の県民周知度

「知っている」は、技能五輪国際大会で25%
国際アビリンピックで14%と少ない

Q17 2007年に県内で開催される「技能五輪国際大会」と「国際アビリンピック」の両大会についてお聞きします。
(1)〔回答票 21〕あなたはこれらの大会をご存知ですか。

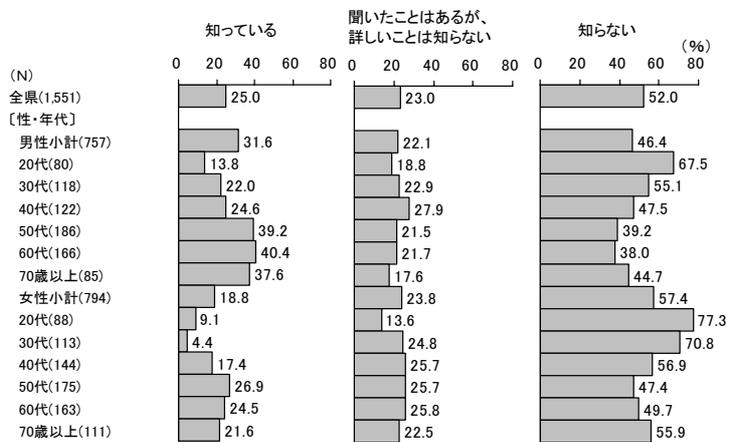
技能五輪国際大会

- 「知っている」が25%、「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」が23%、「知らない」が52%となっている。



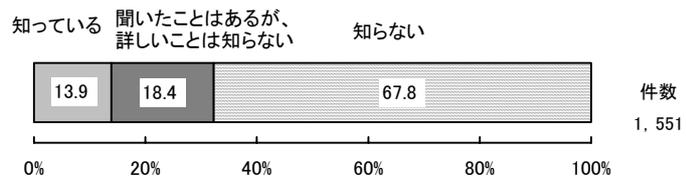
性・年代別

- 「知っている」人は、男性の方が女性より上回っている。また、男性50歳以上で3割以上の方が「知っている」と回答し、特に60代では40%と4割を超えている。一方、女性では20代、30代で「知っている」との回答が10%以下となっている。



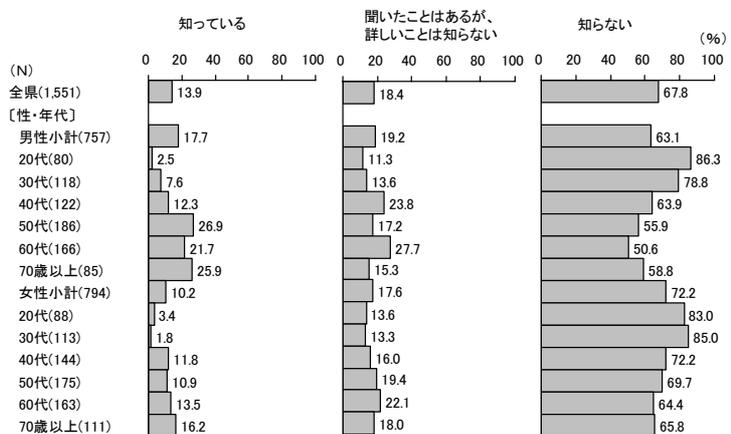
国際アビリンピック

- 「知っている」が14%、「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」が18%、「知らない」が68%となっている。



性・年代別

- 「知っている」人は、男性の方が女性より上回っている。また、男女共に20代、30代で「知っている」との回答が10%以下となっており、「知らない」との回答は8割を占めている。「知っている」との回答が20%を超えているのは男性の50歳以上となっている。

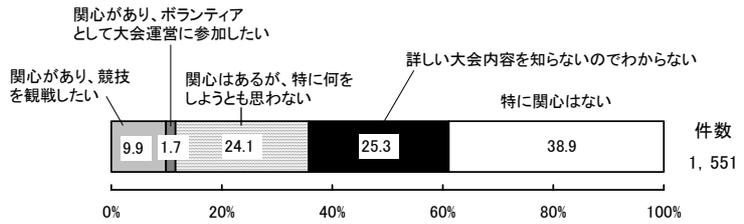


大会への関心と情報の入手先

『関心層』は36%
情報の入手先は、「テレビ・ラジオ」が76%

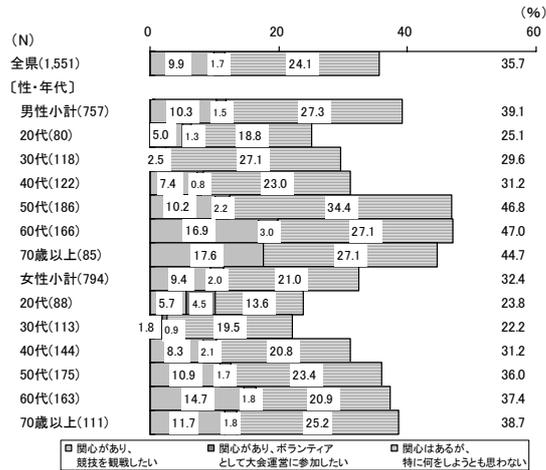
(2) [回答票23] あなたはこれらの大会に関心がありますか。

SQ [回答票 24] 今後、大会の情報をどのように入手したいですか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)



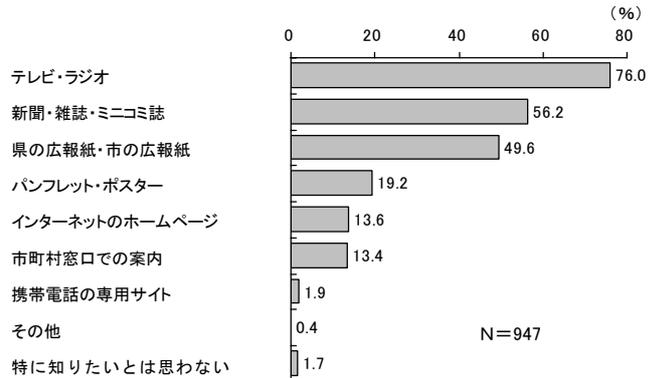
大会への関心

●大会への関心度を聞いたところ、「関心があり、競技を観戦したい」が10%、「関心があり、ボランティアとして大会運営に参加したい」が2%、「関心はあるが、特に何をしようとも思わない」が24%と、以上を合わせた『関心層』は36%となっている。



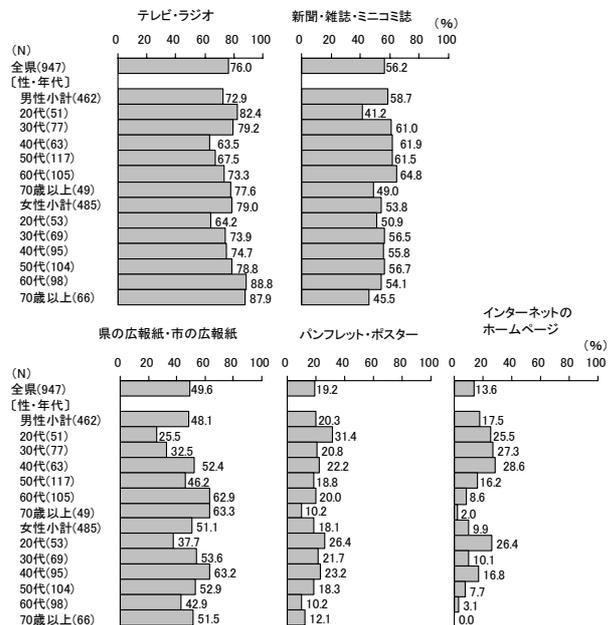
性・年代別

●関心度は、男性が女性を上回っている。男女ともに年代が上がるにつれて関心が高まり、特に男性の50代以上では4割を超えている。



大会情報の入手先

●「テレビ・ラジオ」が76%と最も多く、以下「新聞・雑誌・ミニコミ誌」、「県の広報紙・市の広報紙」と続いている。



性・年代別

●「テレビ・ラジオ」で、女性の60歳以上で8割以上と際立って高くなっている。「インターネットのホームページ」では、男性の20代から40代、女性の20代で25%以上と、4人に1人の割合となっている。

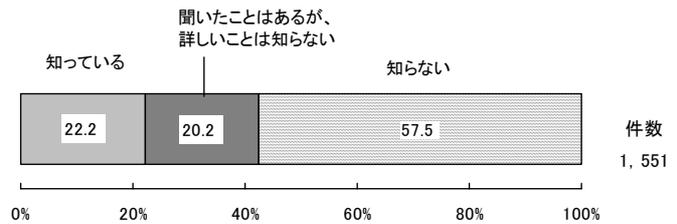
家庭の日の認知

家庭の日を「知らない」という人が、58%と過半数

族ふれあいサンデー」「家族ふれあいウィーク」を含む。)を知っていましたか。

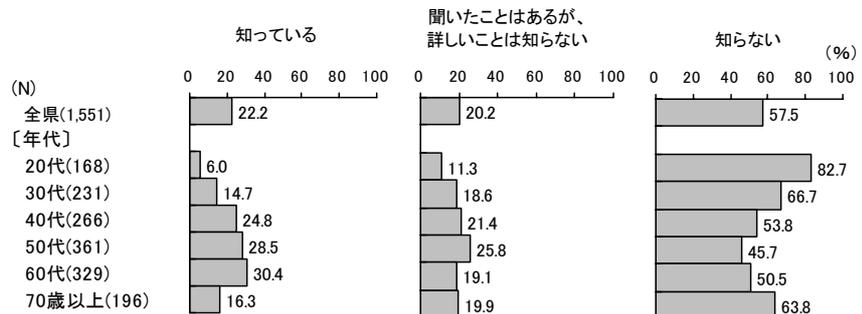
全 体

- 「知っている」が22%、「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」が20%、「知らない」が58%と、「知らない」という人が過半数を占めている。



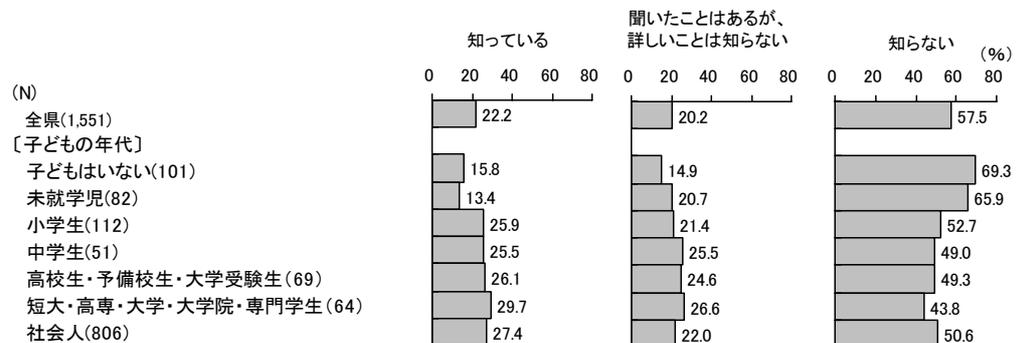
年 代 別

- 60代までは年代が上がるにつれて「知っている」という人の割合が高くなり、特に60代で30%と最も高くなっている。



子どもの年代別

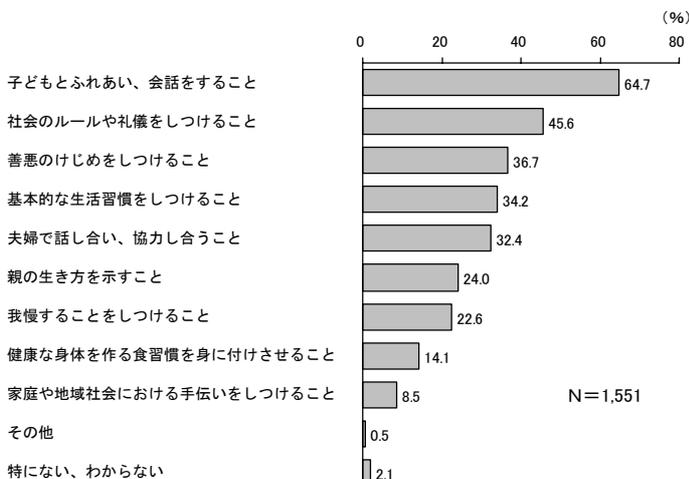
- 小学生以上の子どもがいる人は、「知っている」割合が高く、25%以上が「知っている」と回答している。



Q19 [回答票26] 健やかな子どもの成長のために、家庭教育ではどのようなことが大切だと思いますか。この中から3つまであげてください。(M. A.)

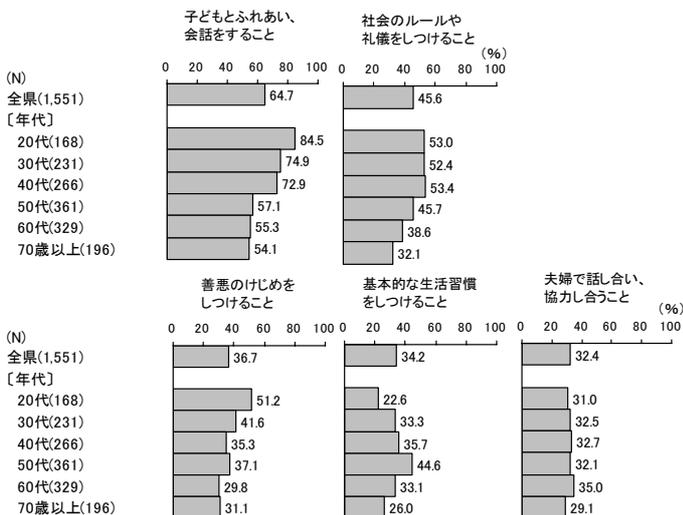
全 体

●「子どもとふれあい、会話をする事」が65%と最も多く、続いて「社会のルールや礼儀をしつけること」、「善悪のけじめをしつけること」、「基本的な生活習慣をしつけること」、「夫婦で話し合い、協力し合うこと」で、以上が上位5項目となっている。



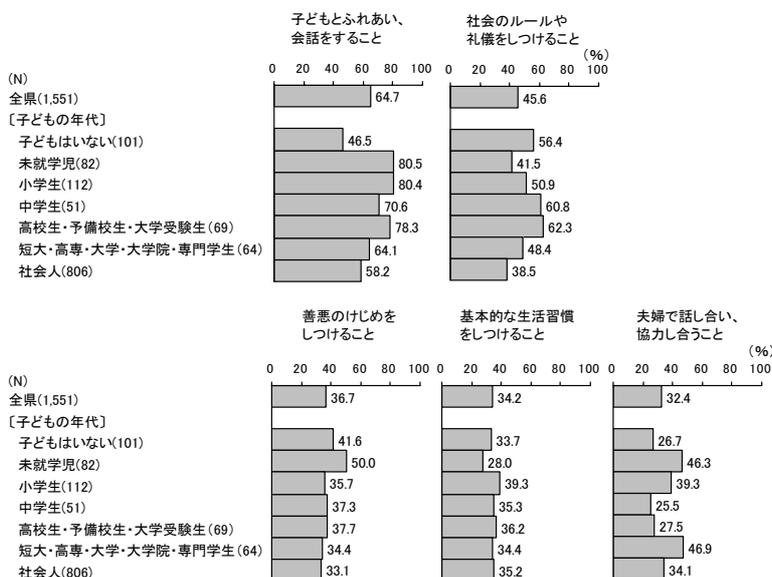
年 代 別

●いずれの年代も第1位は「子どもとふれあい、会話をする事」で、年代が上がるにつれて割合は低くなっている。また、20代の第3位「善悪のけじめをしつけること」、50代の第3位「基本的な生活習慣をしつけること」は、全県平均を10ポイント以上上回っている。



子どもの年代別

●子どもはいない人以外の第1位は「子どもとふれあい、会話をする事」となっており、特に小学生以下の子どもをもつ人の8割以上が大切であると感じている。また、中学生、高校生・予備校生・大学受験生の子どもをもつ人の6割以上が「社会のルールや礼儀をしつけること」が大切であると感じている。



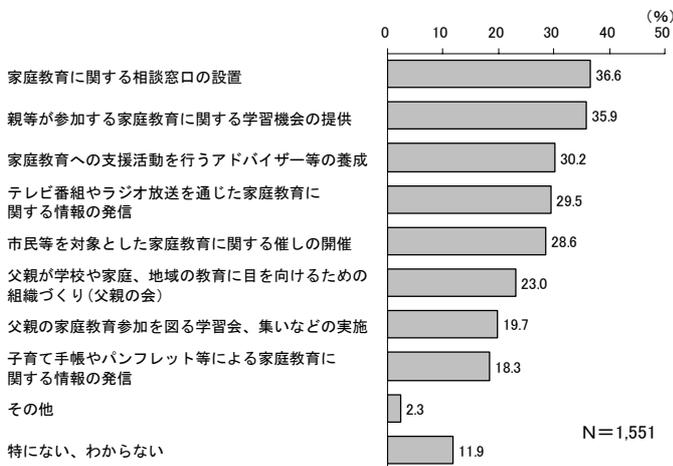
家庭教育充実のために 県や市町村に望むこと

第1位は「家庭教育に関する相談窓口の設置」で37%
第2位は「親等が参加する家庭教育に関する
学習機会の提供」で36%

Q20〔回答票26〕家庭教育の充実のため、
県や市町村にはどのようなことに力を入
れてほしいですか。この中から3つまで
あげてください。(M. A.)

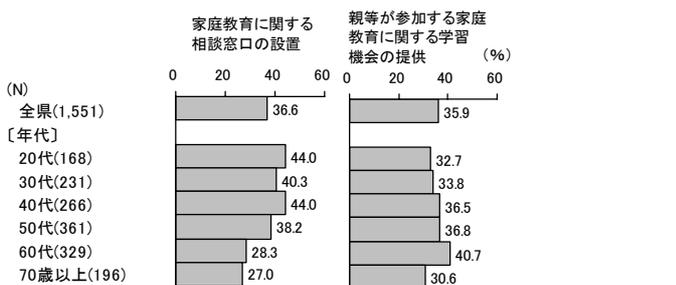
全 体

●「家庭教育に関する相談窓口の設置」
が37%と最も多く、以下「親等が参
加する家庭教育に関する学習機会の
提供」、「家庭教育への支援活動を行
うアドバイザー等の育成」、「テレビ
番組やラジオ放送を通じた家庭教育
に関する情報の発信」と続いている。



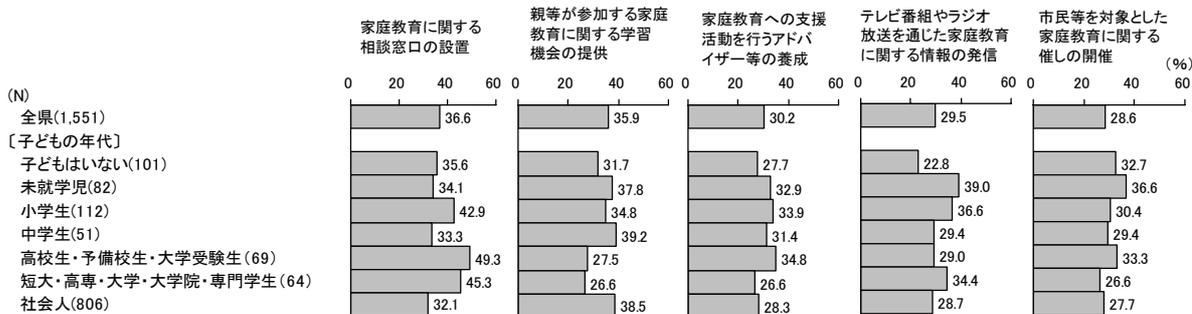
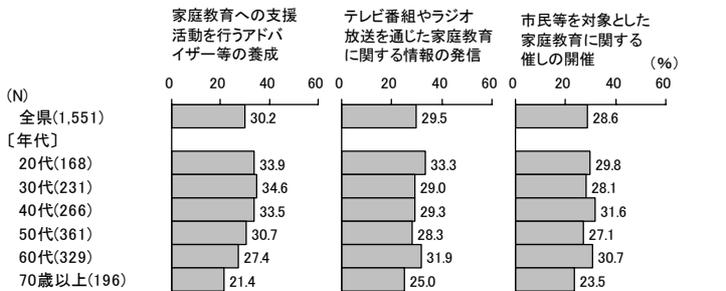
年 代 別

●20代から50代の第1位は「家庭教育
に関する相談窓口の設置」となっ
ているが、60歳以上では「親等が参
加する家庭教育に関する学習機会の提
供」が第1位となっている。



子どもの年代別

●高校生・予備校生・大学受験生をも
つ人で「家庭教育に関する相談窓口
の設置」が49%と第1位になってお
り、全県平均を10ポイント以上上
回っている。



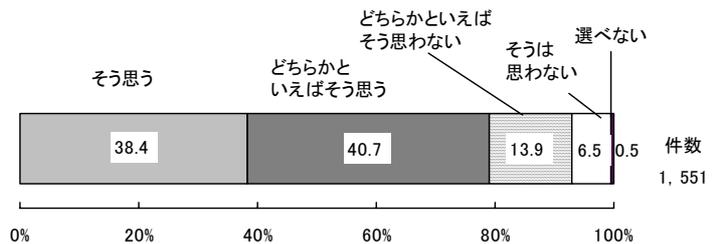
これからの社会の方向性

Q21〔回答票 27〕 これからの社会の方向性については、様々な意見があります。次に掲げたそれぞれの意見に対して、あなたはどのように考えますか。下の中から、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つあげてください。

(1) 経済的な豊かさを追求することよりも、時間的なゆとりや精神的な充実感を重視すべきである。

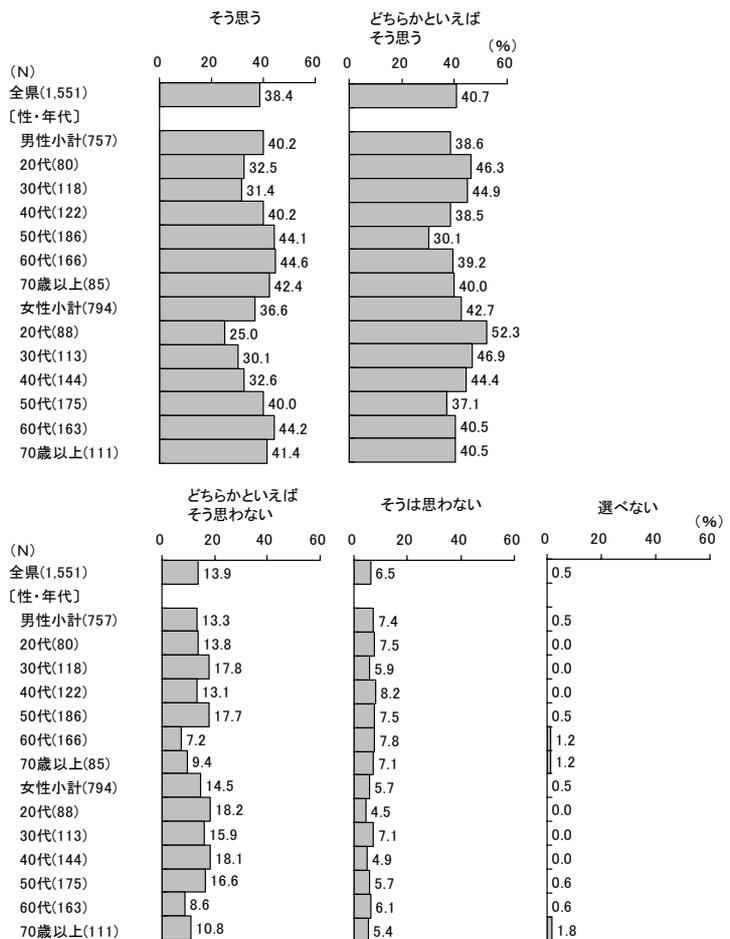
全 体

●「そう思う」が38%、「どちらかといえばそう思う」が41%で、これらをあわせた約8割の人が「精神的な充実感を重視すべきである」と感じている。



年 代 別

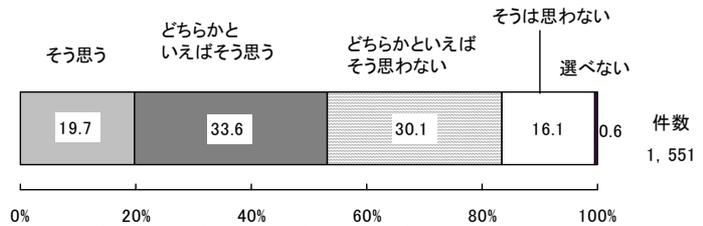
●男女ともに60歳以上で「精神的な充実感を重視すべきである」と感じている人の割合が8割以上となっており、特に女性60代で85%と最も高くなっている。



(2) 平等を重視する社会より、競争を重視する社会の方が望ましい。責任は大きくなっても、自分の選んだ分野で、努力や能力が大きく報われる社会とすべきである。

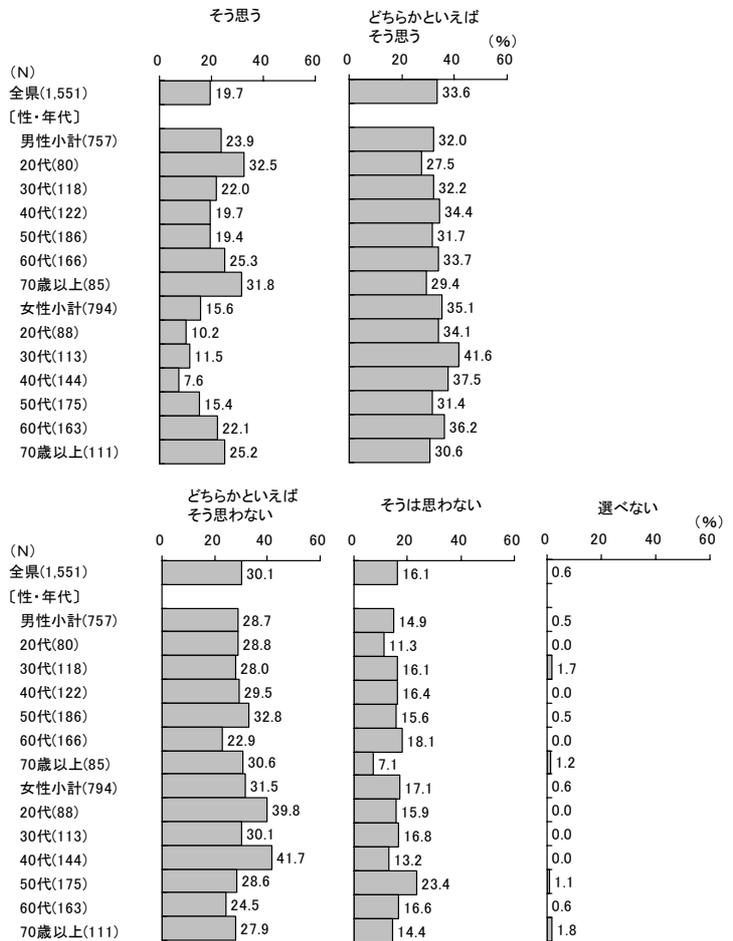
全 体

- 「そう思う」が20%、「どちらかといえばそう思う」が34%で、これらをあわせた過半数の人が「平等よりも競争を重視する」と考えている。



年 代 別

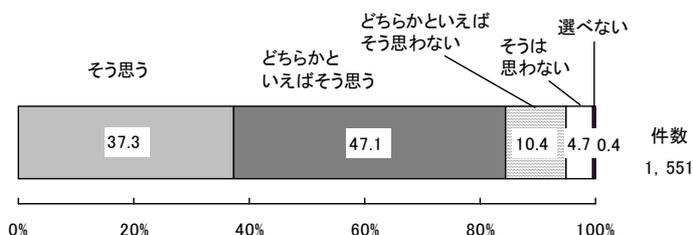
- 男女ともに60歳以上で「平等よりも競争を重視する」人の割合が5割以上となっており、男性70代以上が最も高くなっている。また、男性20代、女性30代でも同様に過半数が「平等よりも競争を重視する」と感じている。



(3) 個人的な幸福を追求する風潮が強まっているが、個人の社会に対する責任を自覚し、ボランティア活動や地域づくりに積極的に参加して、社会貢献をすべきである。

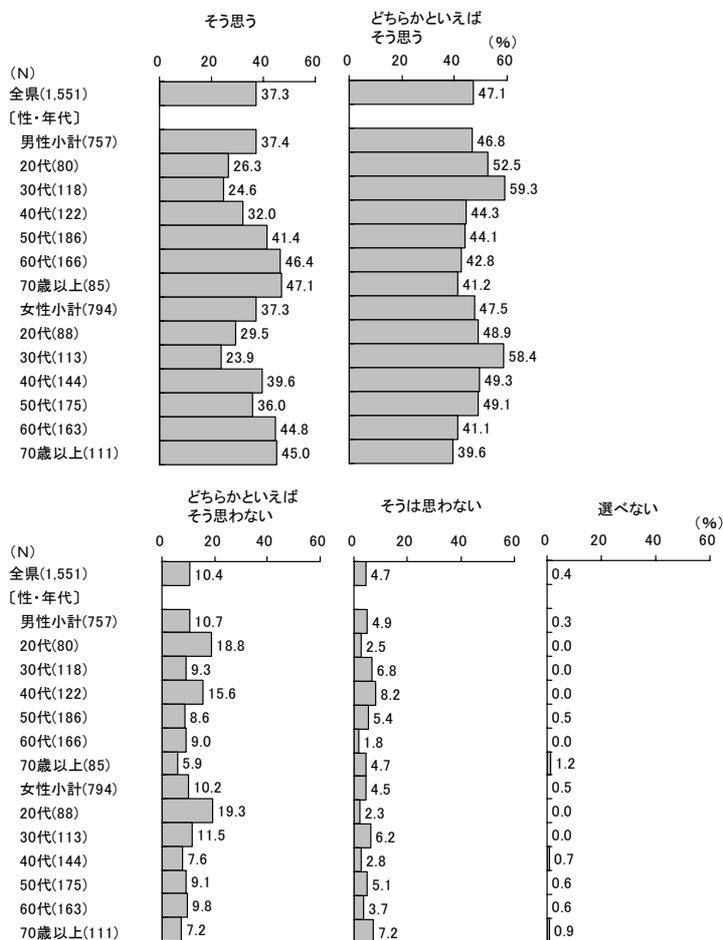
全 体

- 「そう思う」が37%、「どちらかといえばそう思う」が47%で、これらをあわせた8割以上の方が「個人的な幸せよりも社会貢献を重視する」と感じている。



年 代 別

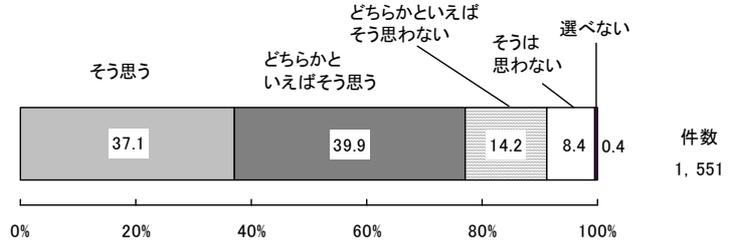
- 男女ともに年代が上がるにつれて「個人的な幸せよりも社会貢献を重視する」と感じる傾向が見られ、男性60代で89%、女性40代で89%と約9割の方が「個人的な幸せよりも社会貢献を重視する」と感じている。



(4) 多少生活が不便になったり、高い値段で買い物をすることになっても、自然や生活環境を守っていくべきである。

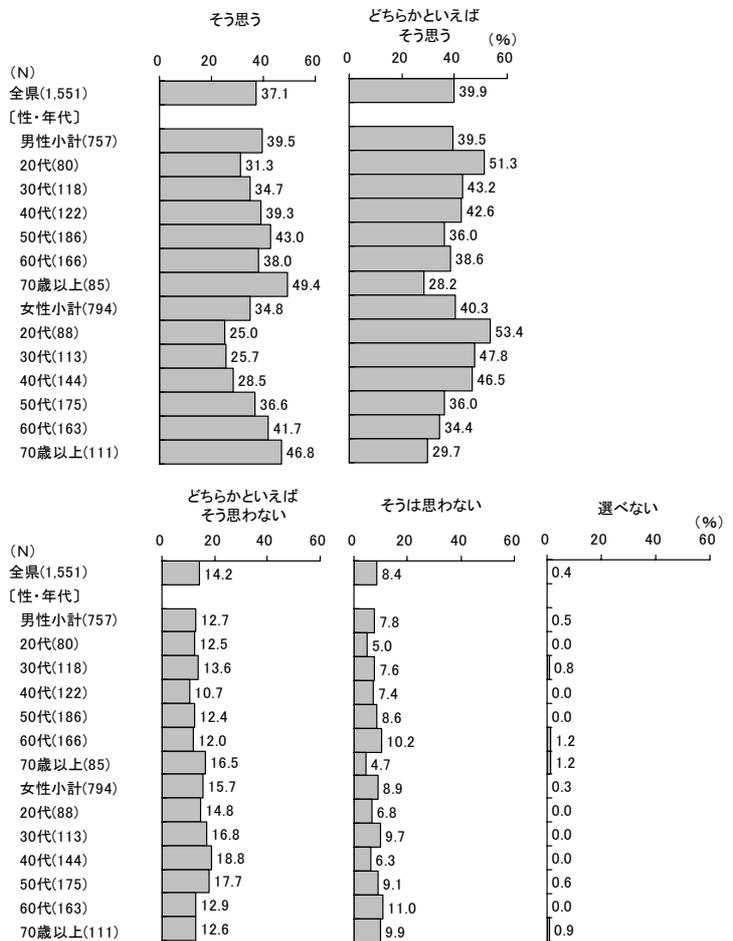
全 体

- 「そう思う」が37%、「どちらかといえばそう思う」が40%で、これらをあわせた約8割の人が、環境を重視しようと考えている。



年 代 別

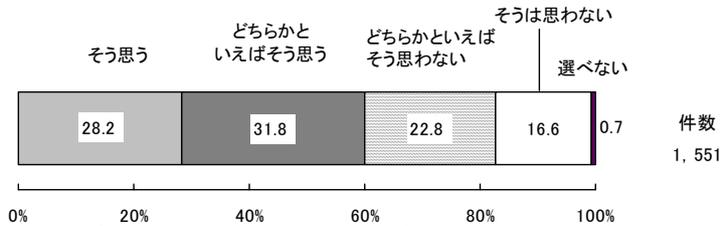
- 年代が上がるにつれて「不便になったり、高額で買物しても環境を重視する」に対して「そう思う」と感じる傾向が見られ、男女ともに70歳以上でそれぞれ49%、47%とピークになっている。



(5) 集団学習による一律の教育よりも、飛び級や自由な科目選択ができるようにし、子どもが得意な能力を伸ばせる学校教育制度にすべきである。

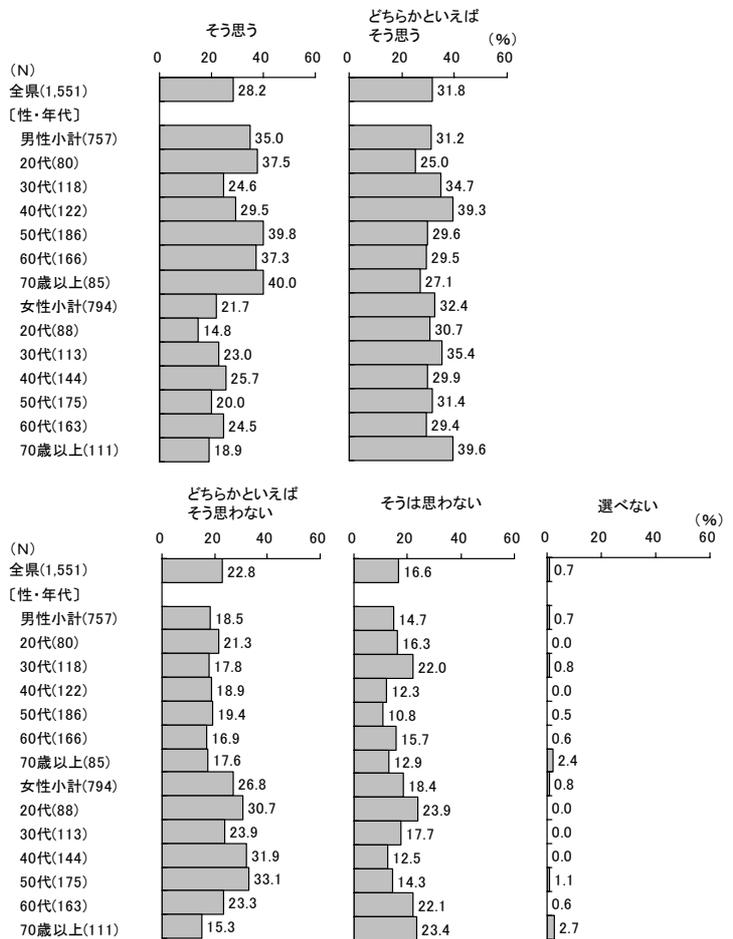
全 体

- 「そう思う」が28%、「どちらかといえばそう思う」が32%で、これらをあわせた8割の人が「集団学習よりも得意能力を伸ばせる教育にすべき」と感じている。



年 代 別

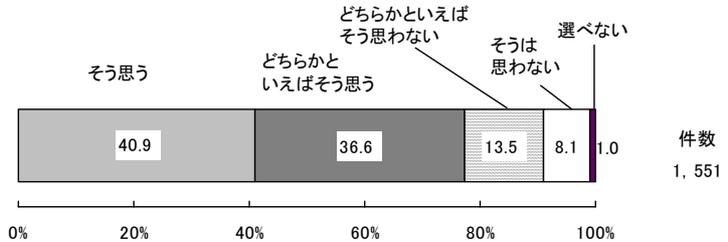
- 性・年代別で見ると、「集団学習よりも得意能力を伸ばせる教育にすべき」と感じている人の割合が最も高いのは、男性では50代の69.4%、女性では70歳以上の58.5%となっている一方で、女性の20代では、45.5%と全県平均を14.5ポイントも下回り低くなっている。



(6) 急激な少子化の進行により、社会を支える次世代の若者への過重な負担が懸念されている。子育てを家庭まかせにせず、社会全体で支える制度を構築すべきである。

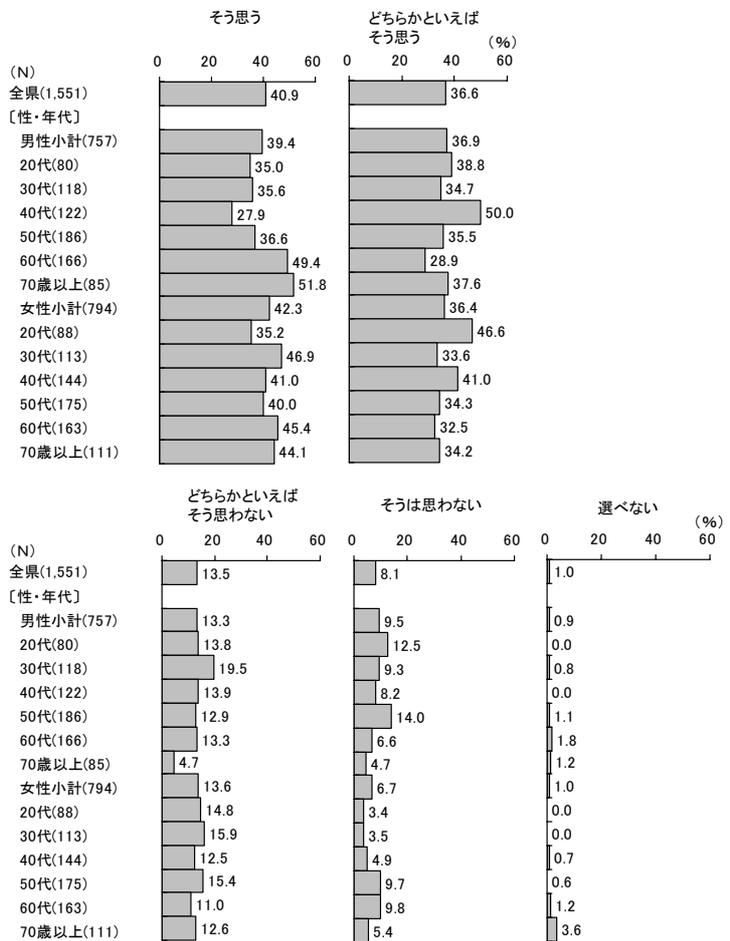
全 体

- 「そう思う」が41%、「どちらかといえばそう思う」が37%で、これらを合わせた約8割の人が「子育てを家庭まかせにせず、社会全体で支える制度を構築すべき」と感じている。



年 代 別

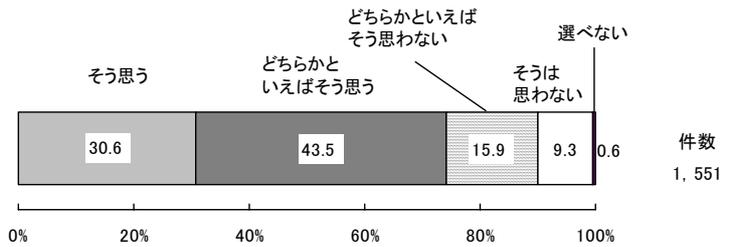
- 女性ではいずれの年代も大きな差異は見られず、7割から8割の人がそのように感じているが、男性では年代が上がるにつれてそのように感じている人の割合が高くなる傾向が見られ、70歳以上で89%と、男女問わず最も高くなっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「子育てを家庭まかせにせず、社会全体で支える制度を構築すべき」と感じている人の割合が、男性では70歳以上で89%、女性では40代で82%とそれぞれの性別で最も高くなっている。



(7) 身近な公共サービスすべてを行政が行うのではなく、民間や住民同士でできるものは、規制緩和などにより企業やNPO（民間非営利団体）などに任せるべきである。

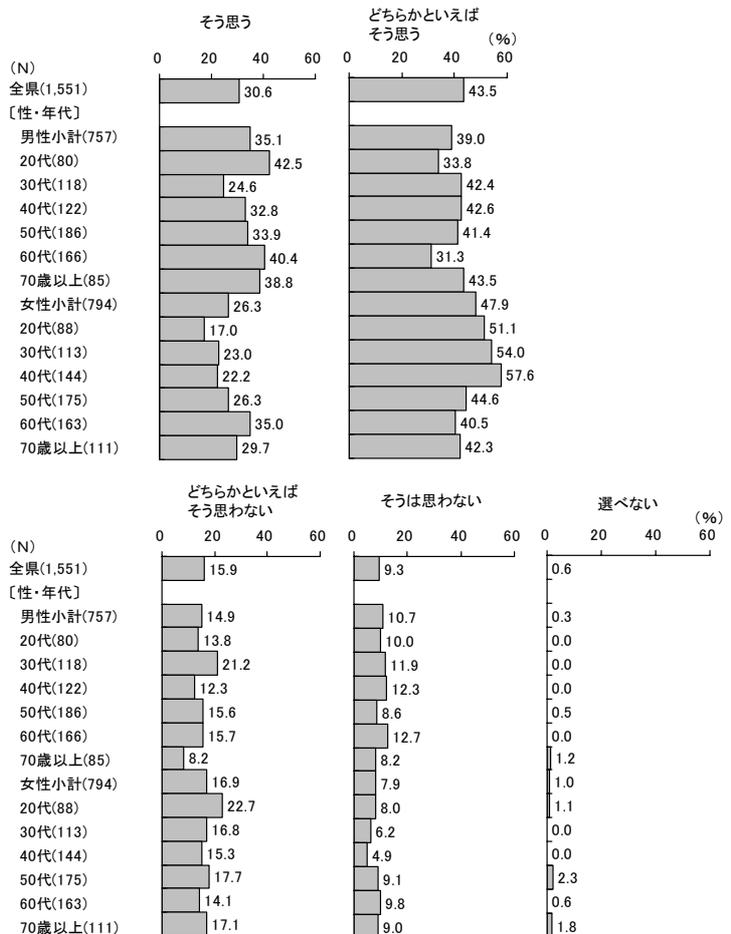
全 体

●「そう思う」が31%、「どちらかといえばそう思う」が44%で、これらをあわせた7割以上の方が「公共サービスすべてを行政が行うのではなく民間企業などにも任せるべき」と感じている。



年 代 別

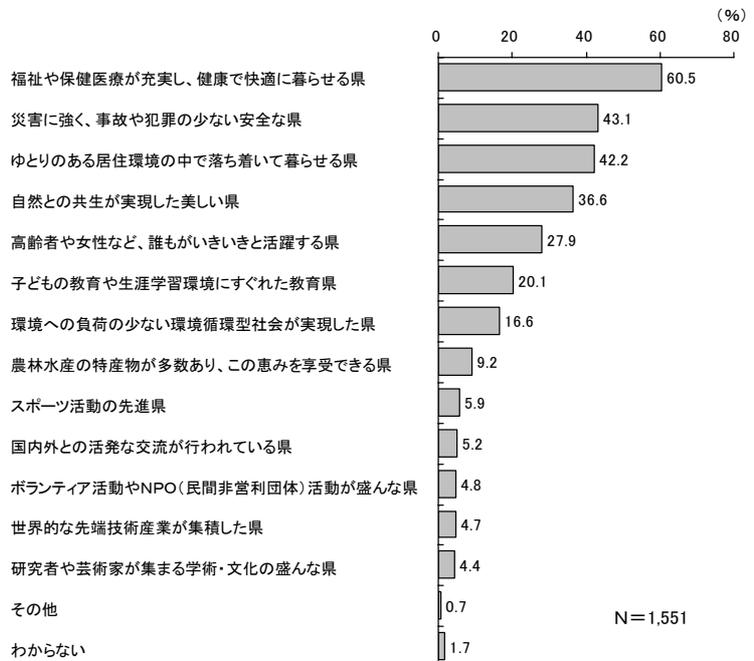
●「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた「公共サービスすべてを行政が行うのではなく民間企業などにも任せるべき」と感じている人の割合は、性別・年代に大きな差はみられず、男性の70歳以上で82%と最も高くなっている。



Q22 [回答票 28] あなたは、20年後の静岡県が、どのような県になってほしいですか。この中から3つまであげてください。(M. A.)

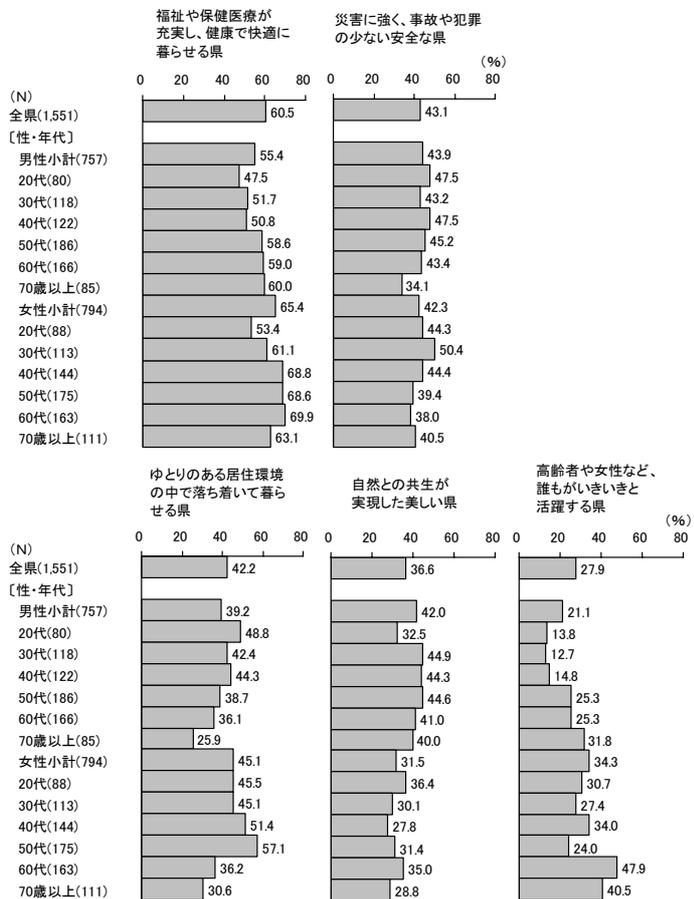
全 体

●「福祉や保健医療が充実し、健康で快適に暮らせる県」が61%で最も多く、続いて「災害に強く、事故や犯罪が少ない安全な県」、「ゆとりのある居住環境の中で落ち着いて暮らせる県」、「自然との共生が実現した美しい県」、「高齢者や女性など、誰もがいきいきと活躍する県」、「子どもの教育や生涯学習環境にすぐれた教育県」、「環境への負荷の少ない環境循環型社会が実現した県」、「農林水産の特産物が多数あり、この恵みを享受できる県」、「スポーツ活動の先進県」、「国内外との活発な交流が行われている県」、「ボランティア活動やNPO(民間非営利団体)活動が盛んな県」、「世界的な先端技術産業が集積した県」、「研究者や芸術家が集まる学術・文化の盛んな県」以上が上位5項目となっている。



性・年代別

●男性20代を除いた年代において第1位は「福祉や保健医療が充実し、健康で快適に暮らせる県」となっている。男女ともに年代が上がるにつれて「福祉や保健医療が充実し、健康で快適に暮らせる県」の割合が高く、男性では70歳以上、女性では60代がピークとなっている。また、女性50代で「ゆとりのある居住環境の中で落ち着いて暮らせる県」が、女性60歳以上で「高齢者や女性など、誰もがいきいきと活躍する県」がそれぞれ全県平均を10ポイント以上上回っている。



平成 16 年度

県 政 世 論 調 査

平成 16 年 11 月

編集・発行 静岡県企画部広報局県民のこえ室
静岡県追手町 9 番 6 号
電話 (054) 221-2235
